

平成30年度

酒々井の教育



酒々井町教育委員会

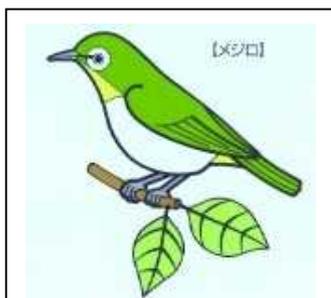
町民憲章

古い歴史と伝統をもつ新しい町酒々井は、輝く太陽の下、清らかな水と豊かな緑に包まれたわたくしたちのふるさとです。

わたくしたちは、この素晴らしい自然を守りながら、文化の香り高い調和のとれた田園都市をつくりあげるために町民憲章を定めます。

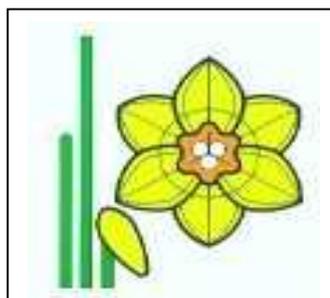
1. わたくしたちは、歴史を大切にし
自然を愛して美しいまちをつくりましょう。
1. わたくしたちは、若い力を育て
働くことを喜び豊かなまちをつくりましょう。
1. わたくしたちは、きまりを守り
他人を尊び明るいまちをつくりましょう。
1. わたくしたちは、老人を敬い
子供を慈しみ温かいまちをつくりましょう。
1. わたくしたちは、笑顔で接し
心の通う住みよいまちをつくりましょう。

(昭和49年11月3日制定)



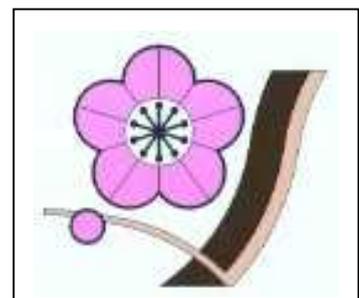
町の鳥「メジロ」

平成6年7月制定 豊かな自然との融合を表しています。



町の花「水仙」

平成元年3月制定 さわやかなプライドと明日への明るい希望を表しています。



町の木「梅」

昭和45年11月制定 伝統と気高さを表しています。

【表紙の写真】 本佐倉城跡と教育委員会のイメージキャラクター 勝っタネ!くん

はじめに

小学校、中学校については平成29年3月に改訂された新学習指導要領の改訂に伴う移行措置が始まりました。平成32年度以降の全面実施に向けた円滑な移行が課題となっております。特に、小学校では今年度、中学校では来年度から全面実施される「特別の教科 道徳」、小学校5・6年の「教科英語」と3・4年の「英語活動」への対応を適切に実施して参ります。また、昨年度実施した教職員の勤務実態調査において、看過できない教職員の長時間勤務の実態が示されました。新学習指導要領を確実に実施していくためには、学校の働き方改革を着実に実施し、教職員の業務負担軽減を図っていくことが重要な課題であると考えております。同時に、教職員皆様の意識改革も必要不可欠であると思っております。

まちづくりの要は人づくりであります。上述の他にも様々な課題がありますが、そうした課題に真摯に対峙し、厳しい財政事情ではありますが、課題解決を目指して適切かつ効果的な施策を展開して参ります。以下に、平成30年度の新規事業や拡大する事業などについてご紹介いたします。

学校教育では、①小学校への英語専科教員配置（町独自予算）。町内小学校が2年前倒して実施する5・6年の教科英語等に関して、教員の指導力向上を図るとともに教員の負担を軽減します。5・6年の授業は毎時間専科教員・学級担任・ALTの3人体制で行います。②中学校への部活動指導員配置と「小中学校部活動の運営に関する指針」の策定。教員の負担軽減と生徒の競技力の向上を図り、適切な運営がされるよう支援して参ります。③中学生のオーストラリアとドイツへの派遣継続と、ドイツ・ドルフエン市の中高生（20名）の受け入れ。④大室台小学校グラウンド改修・酒々井小学校用地公有地化・酒々井中学校グラウンド拡張に伴うテニスコートの整備に着手。⑤ふるさと学習「酒々井学」の推進。教師向けの指導書や「酒々井町郷土史年表」を作成し、小学校に郷土資料館を整備します。

社会教育・生涯学習では、⑥健康体育アドバイザーの配置。スポーツクラブ設立やスポーツ施策の調査研究及び運営、部活動指導者への指導・助言など、体育スポーツの振興を図ります。⑦オリンピック・パラリンピックムーブメントに取り組みます。⑧北海道陸別町との児童交流に加えて、群馬県長野原町との児童交流を始めます。⑨本佐倉城跡国史跡指定20周年記念事業の実施。

酒々井町はコンパクトな町です。小さいからこそできることがあり、酒々井町としてやれることは何か、国や県の方針を待つだけでなく、積極的に施策を展開して参りたいと考えております。ご意見などいただければ幸いに存じます。

平成30年10月

酒々井町教育委員会教育長 木村俊幸

目 次

酒々井町の概要

沿革、自然と地勢、交通	1
人口の推移、町名の由来	2

教育委員会の組織と予算等

1 教育委員会	3
2 教育委員会組織	4
3 職員数	5
4 教育費	6

平成30年度教育施策

1 酒々井町総合計画の基本目標	9
2 教育委員会の基本理念	9
3 重点施策	10

学校教育

1 児童生徒の個性を生かす教育と生き生きとした学校生活の創造	15
2 社会の変化に対応した学校教育の推進	19
3 教職員の資質や指導力の向上	20
4 教育条件の整備	20
5 家庭との連携	21
6 幼児教育の支援	21

生涯学習

1 生涯学習の推進	23
2 青少年健全育成	25
3 人権教育の推進	27
4 学校支援体制の確立	28
5 文化・芸術の振興	29
6 スポーツ・レクリエーションの推進	30

施設紹介

1 学校施設紹介	36
2 社会教育施設紹介	44

資 料

歴代教育長・教育委員	50
各種審議会・団体	51

酒々井町の概要

沿革

酒々井町は、中世室町時代に下総国の守護職であった千葉氏宗家の居城が千葉から酒々井の本佐倉に移され、以後100年余の間、下総地方を統治する中心的役割を果たした。江戸時代には、佐倉藩に属し、その城下町として、また、徳川幕府直轄の佐倉牧（野馬牧場）の野馬会所の地として、さらには成田山や芝山参詣客の宿場町として栄えた。そして明治22年に町村制が施行され、近隣16か町村が合併して酒々井町が誕生し、現在に至っている。

この間、農業を主産業として堅実な発展を遂げてきたが、鉄道や道路などの優れた都市機能、あるいは首都圏近郊整備地帯、成田国際空港に隣接するなど好立地条件を備えていたため、昭和40年代後半から50年代にかけて住宅開発とこれに伴う急激な人口増加により、住宅都市へと大きくその姿を変え、それまで6千人台であった人口も2万人を超える町へと発展した。

現在、平成24年度からスタートした「第5次総合計画」の後期基本計画に基づき輝きのあるまちづくりを進めている。

自然と地勢

酒々井町は、千葉県の北部、北総台地に位置し、面積は19.01平方キロメートルを有する。そして、都心から50キロメートル圏内にあり、北東は国際空港と門前町の「成田市」に、南西は、歴史と文化の城下町「佐倉市」に接している。

さらに気候は、極めて温暖で緑豊かな自然に包まれており、最適な生活環境となっている。



位置

方位	東経	北緯
極東	140° 18′	35° 44′
極西	140° 14′	35° 43′
極南	140° 16′	35° 41′
極北	140° 17′	35° 45′

役場の位置

東経 140° 16′ 22″
北緯 35° 43′ 18″

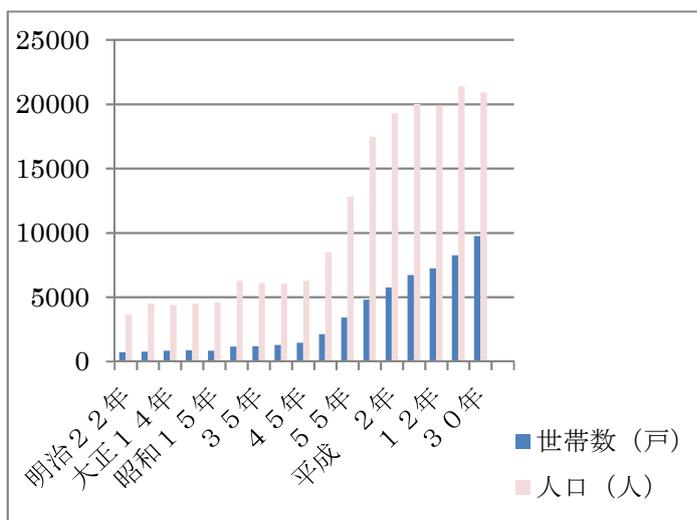
交通

鉄道は、JR成田線酒々井駅、JR総武本線南酒々井駅、京成電鉄酒々井駅・宗吾参道駅の3線4駅があり、都心や千葉市、成田国際空港を結んでいる。

道路は、国道51号・296号、県道3線が縦横に走り、県東部と千葉市や東京方面を結ぶ交通の要衝となっている。また、東関東自動車道の酒々井ICが平成25年4月に開設された。

人口の推移

	世帯数(戸)	人口(人)
明治 22年	720	3,644
大正 4年	756	4,501
14年	837	4,376
昭和 5年	850	4,507
15年	844	4,611
25年	1,168	6,279
35年	1,178	6,093
40年	1,272	6,040
45年	1,464	6,259
50年	2,136	8,465
55年	3,421	12,807
60年	4,801	17,463
平成 2年	5,754	19,298
7年	6,726	20,019
12年	7,225	19,885
17年	8,246	21,385
22年	8,571	21,234
30年	9,753	20,906



平成30年は4月1日現在

資料：国勢調査 酒々井町史

町名の由来 「酒の井」伝説

昔むかし、印旛沼の近くの村に年老いた父親と孝行息子が住んでおった。

父親は、たいそう酒好きで、親思いの息子は、うれしそうに酒を飲む父親見たさに、毎日生懸命働いて父親に酒を買っていたそうな。

ところがある日、どうしても酒を買う金がつくれず、父親のがっかりした顔を思い浮かべながら、とぼとぼ帰り道を歩いていると、通り道にある井戸のそばからぷ〜んと酒の匂いがしてきたそうじゃ。息子は不思議そうに思ったが、「これで父親の喜ぶ顔が見られる」と、竹筒に酒を入れて大急ぎで持って帰ったそうな。

父親は、「こんなうまい酒ははじめてじゃ」と、たいそうな喜びようじゃった。息子はそれから毎日、井戸から汲んでは飲ませてやったそうな。ところが不思議なことに、この酒は親子以外の者が飲むとただの水になるしろものなんじゃ。そこで「これはきっと、孝行息子の真心が天に通じたにちがいない」と、みんなほめたたえたんじゃ。

この酒の井戸の噂が広まり、村の名もいつしか『酒々井』と呼ばれるようになったということじゃ。



地域の皆さんにより整備された酒の井の碑

教育委員会の組織と予算等

I 教育委員会の組織と予算等

1. 教育委員会

(1) 教育長及び教育委員

役職名	氏名	就任年月日	任期
教育長	木村 俊幸 <small>きむら としゆき</small>	平成27年4月1日	平成30年4月1日 ～平成33年3月31日
教育長職務代理者	石井 國治 <small>いしい くにはる</small>	平成26年10月1日	平成30年10月1日 ～平成34年9月30日
委員	村重 浩二 <small>むらしげ こうじ</small>	平成26年10月1日	平成30年10月1日 ～平成34年9月30日
委員	林 洋子 <small>はやし ようこ</small>	平成27年10月1日	平成27年10月1日 ～平成31年9月30日
委員	浦壁 京子 <small>うらかべ きようこ</small>	平成21年3月24日	平成29年3月24日 ～平成33年3月23日

(2) 教育委員会会議

教育委員会会議は、原則として毎月1回開催します。また必要に応じて臨時の会議を開催することもあります。

なお、平成29年度の開催回数と審議した案件は次のとおりです。

会議の開催回数

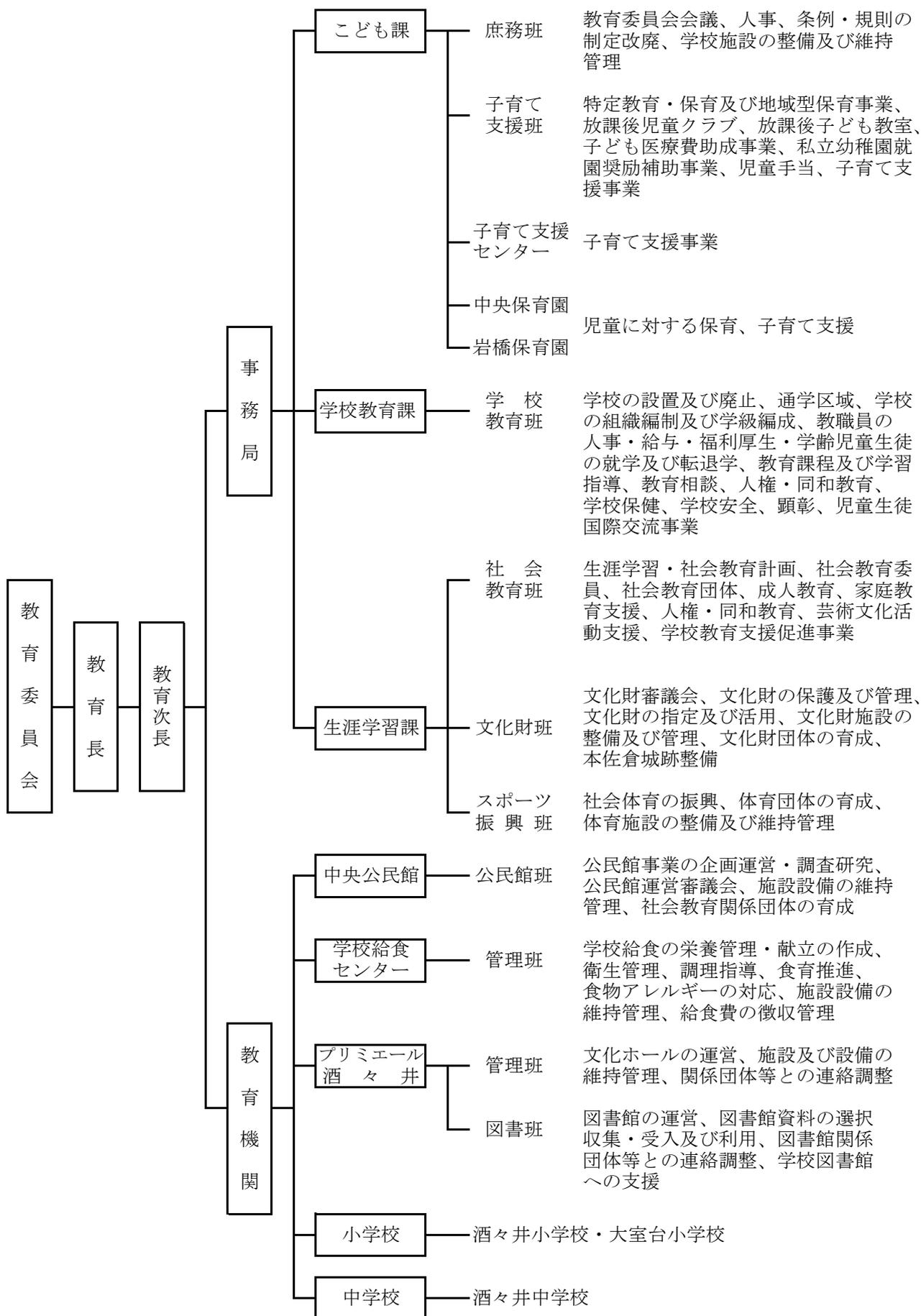
区別	定例会	臨時会	計
回数	12	0	12

審議した案件	件数
教育行政の運営に関する基本方針	1
教育委員会規則及び訓令を制定及び改廃すること	5
予算その他議会の議決を要する事件の議案について町長に意見を申し出ること	8
教育に関する事務点検・評価に関すること	1
附属機関の委員を任命し又は委嘱すること	8
教育委員会の各表彰規程に基づく表彰	1
教科書その他の教材の取扱いの方針を定めること	1
計	29

(3) 意見交換会

教育委員会会議の他、委員による教育に関する諸問題の協議や小中学校等の視察などを15回開催しました。

2 教育委員会組織



3. 職 員 数

	事 務 局				教 育 機 関					計
	教育次長 教育長	こども課	学校教育課	生涯学習課	中央公民館	学校給食 センター	プリミエール 酒々井	小学校	中学校	
教育長	1									1
教育次長	1									1
課長・館長・園長・副参事		3	1	2	①		1			7
副課長・主幹・事務長・所長		2	2			1		2<2>		7
副主幹		6		2	①	1				9
主 査							2		1	3
副主査		6		4	②		1			11
主任主事・主任保育士			1							1
主事・保育士		9		3	①		1			13
指導主事			1							1
社会教育主事				①						0
栄養士		2				2(2)				4
用務員								2<2>	1<1>	3
教育施設等技術員		1<1>								1
保育アドバイザー		2<2>								2
子育て支援アドバイザー		1<1>								1
教育アドバイザー			2<2>							2
教育ファシリテーター			1<1>							1
学校適応専門相談員			2<2>							2
外国語指導助手			3<3>							3
英語専科教員								2<2>		2
スクールカウンセラー								1(1)	1(1)	2
スクールサポート指導員								2<2>	3<3>	5
スクール支援員								6<6>		6
特別支援学級介助員								3<3>		3
学校図書館アシスタント								2<2>	1<1>	3
部活動指導員									2<2>	2
家庭教育指導員				1<1>						1
健康体育アドバイザー				1<1>						1
社会教育指導員					2<2>					2
発掘調査員				1<1>						1
保育士		39<39>								39
主任支援員		1<1>								1
放課後児童支援員		1<1>								1
放課後児童補助員		7<7>								7
調理員		11<11>				委託15				26
ボイラー技師						委託1				1
配膳員						委託6				6
給食配送運転手						委託2				2
司書助手							8<8>			8
文化ホール機械操作員							2<2>			2
臨時職員		4<4>		7<7>	12<12>		1<1>			24
計	2	95<67>	13<8>	21<10> ①	14<14> ⑤	4(2) 委託 24	16<11>	20(1) <19>	9(1) <7>	218

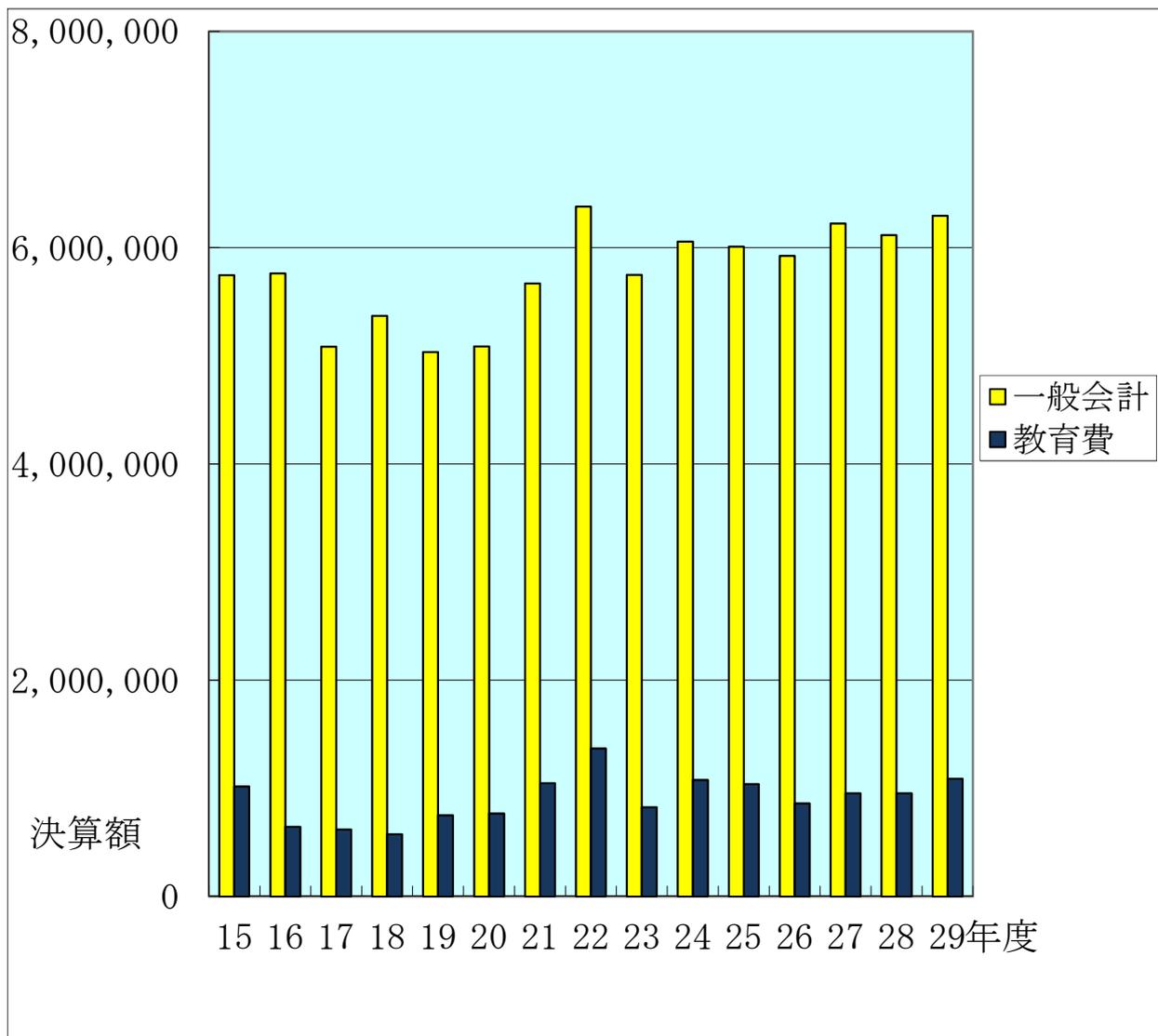
※ () は県費負担職員 内書 < > は非常勤職員・臨時職員 内書 ○は兼務

4 教 育 費

(1) 平成15年度以降の一般会計決算額と教育費

単位：千円

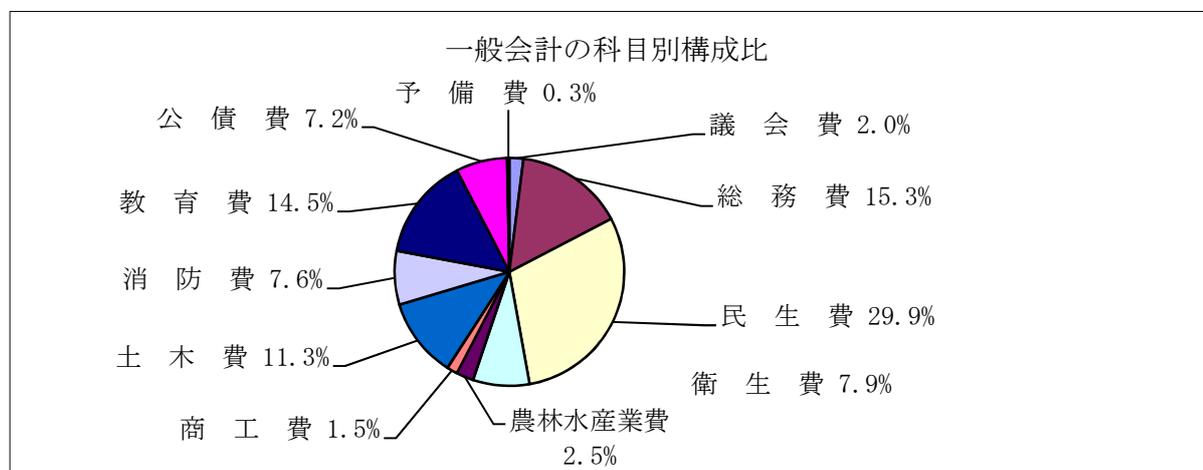
年 度	一般会計	教育費	構 成
15	5,744,919	1,016,106	17.7%
16	5,761,375	643,018	11.2%
17	5,082,211	618,422	12.2%
18	5,368,323	574,215	10.7%
19	5,034,799	749,579	14.9%
20	5,087,157	765,387	15.0%
21	5,668,273	1,046,660	18.5%
22	6,378,954	1,367,606	21.4%
23	5,747,871	823,719	14.3%
24	6,054,860	1,076,323	17.8%
25	6,010,179	1,039,168	17.3%
26	5,922,923	860,165	14.5%
27	6,222,864	952,180	15.3%
28	6,116,628	953,605	15.6%
29	6,295,490	1,088,439	17.3%



(2) 平成30年度の一般会計歳出予算額と教育費

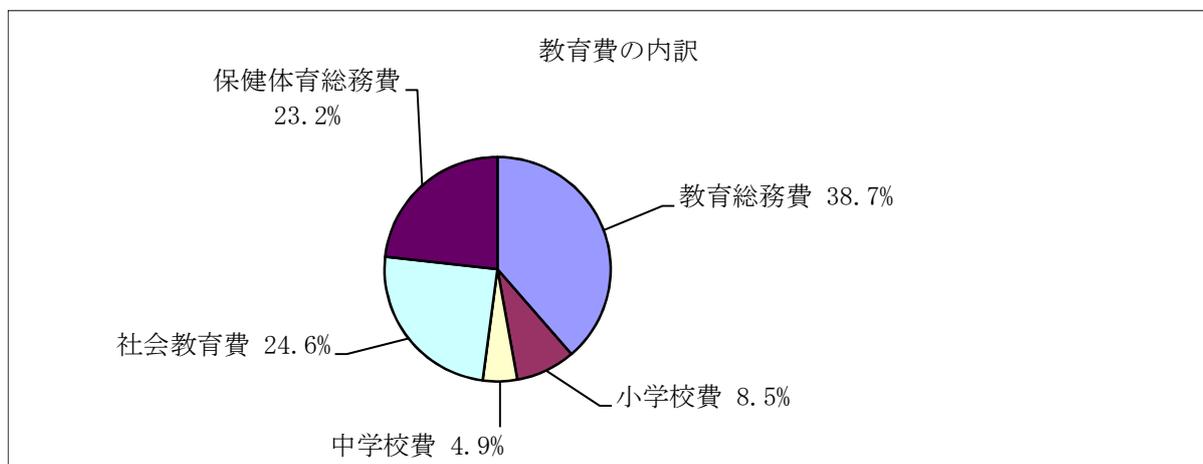
単位：千円

	30年度予算額	構成比	前年度予算額	前年度比較
議会費	125,316	2.0%	121,124	4,192
総務費	983,719	15.3%	941,242	42,477
民生費	1,916,267	29.9%	1,846,882	69,385
衛生費	508,639	7.9%	521,907	△ 13,268
農林水産業費	157,989	2.5%	155,163	2,826
商工費	95,921	1.5%	131,815	△ 35,894
土木費	723,113	11.3%	771,768	△ 48,655
消防費	487,671	7.6%	472,289	15,382
教育費	929,786	14.5%	1,003,275	△ 73,489
公債費	462,124	7.2%	424,213	37,911
予備費	20,000	0.3%	10,000	10,000
歳出合計	6,410,545	100.0%	6,399,678	10,867



単位：千円

	30年度予算額	構成比	前年度予算額	前年度比較
教育総務費	359,467	38.7%	372,648	△ 13,181
小学校費	79,295	8.5%	80,747	△ 1,452
中学校費	45,827	4.9%	49,411	△ 3,584
社会教育費	229,173	24.6%	264,101	△ 34,928
保健体育総務費	216,024	23.2%	236,368	△ 20,344
合計	929,786	100.0%	1,003,275	△ 73,489



(3) 教育費予算

単位：千円

	平成30年度		平成29年度		比較
	予算額	構成比	予算額	構成比	
1. 教育総務費	359,467	38.7%	372,648	37.1%	△ 13,181
(1) 教育委員会費	2,273	0.2%	2,161	0.2%	112
(2) 事務局費	357,194	38.4%	370,487	36.9%	△ 13,293
2. 小学校費	79,295	8.5%	80,747	8.0%	△ 1,452
(1) 学校管理費	56,856	6.1%	57,038	5.7%	△ 182
(2) 教育振興費	22,439	2.4%	23,709	2.4%	△ 1,270
3. 中学校費	45,827	4.9%	49,411	4.9%	△ 3,584
(1) 学校管理費	29,112	3.1%	32,991	3.3%	△ 3,879
(2) 教育振興費	16,715	1.8%	16,420	1.6%	295
4. 社会教育費	229,173	24.6%	264,101	26.3%	△ 34,928
(1) 社会教育総務費	52,499	5.6%	47,542	4.7%	4,957
(2) 文化財保護費	35,567	3.8%	34,197	3.4%	1,370
(3) 公民館費	51,397	5.5%	99,279	9.9%	△ 47,882
(4) 青少年健全育成費	7,154	0.8%	3,899	0.4%	3,255
(5) 同和対策集会所費	859	0.1%	855	0.1%	4
(6) プリミエール運営費	81,697	8.8%	78,329	7.8%	3,368
5. 保健体育費	216,024	23.2%	236,368	23.6%	△ 20,344
(1) 保健体育総務費	29,985	3.2%	28,715	2.9%	1,270
(2) 体育施設費	880	0.1%	847	0.1%	33
(3) 給食センター費	185,159	19.9%	206,806	20.6%	△ 21,647
合計	929,786	100%	1,003,275	100%	△ 73,489

平成30年度 教育施策

平成30年度 教育施策

1 酒々井町総合計画の基本目標

教育文化 豊かな心を育み歴史を活かした文化創造のまちづくり

町の将来を担う子どもたちが、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」を身に付けることができるよう学校教育に取り組むとともに、学校・家庭・地域社会の連携による教育の充実を図ります。

また、町民一人ひとりが学習意欲を持ち、生きがいを感じながら生涯にわたり学び続けるための環境づくりと、学習成果を地域に還元できる、生涯学習を推進します。

町民の誰もが、歴史と文化、自然豊かな“郷土・酒々井”に愛着と誇りを持ち、「酒々井で育ってよかった」、「酒々井に住んでよかった」と思えるよう、豊かな心を育み歴史を活かした文化創造のまちづくりを進めていきます。

2 基本理念

町教育委員会は、町民の誰もが、歴史と文化、そして、自然豊かな“郷土・酒々井”に愛着と誇りを持ち、しなやかに すこやかに いきいきと生きる人づくりをめざします。

しなやかに すこやかに いきいきと生きる人づくり

しなやかに …… しなやかな感性、すぐれた知性を育てる教育

たくましさとしなやかさを併せ持つとともに、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた「生きる力」を育みます。

すこやかに …… すこやかな心と体を生涯にわたって育む教育

心身ともに健やかな生活を送るため、生涯にわたって自ら学び、その成果を生かすなど、生きがいを感じて暮らせるよう生涯学習を推進します。

いきいきと …… いきいきとした学びをみんなで実現する教育

学校、家庭、地域、行政などがそれぞれの役割を自覚するとともに、酒々井の教育に積極的に参画・連携し、お互いの絆と各々の教育力を高め合います。

平成30年度 教育施策体系図



学校教育

Ⅲ 学校教育／取り組み方向

1. 児童生徒の個性を生かす教育と生き生きとした学校生活の創造

(1) 創意ある教育課程の推進

児童生徒の実態や地域の実情を生かした特色ある学校づくり、学習への興味・関心を培う教育、社会人の活用などにより、創意ある教育活動の推進に努める。



小学校校内授業研修会

① 「学習指導要領」に基づく教育活動の充実

各小・中学校が独自性を発揮しながら、全教育活動を通じて「人生を拓く確かな学力」「思いやりのある豊かな心」「活力にあふれる健やかな体」をはぐくみ、「主体的・対話的で深い学び」を図りつつ、「発達の段階に応じたキャリア教育」「地域とともに歩む学校づくり」を進める教育活動を展開する。

② 少人数指導の充実

基礎的基本的な内容の確実な定着をねらい、習熟の程度に応じた少人数指導を、算数・数学で行い、個に応じたきめ細かな指導を推進する。

③ 総合的な学習の時間の充実

スクールボランティア等外部人材の活用を図りながら、各学校の創意工夫のもとに、総合的な学習の時間等に取り組み、体験的な学習を通して、生きる力の育成に努める。

④ スクールサポート指導員の配置

スクールサポート指導員を各学校に配置し、特色ある教育活動を支援する。各学校では、特別支援教育、適応指導・教育相談における支援者として児童生徒の指導にあたる。



スクールサポート指導員
による支援

⑤ 学校評価の実施

学校運営における Plan(計画)－Do(実施)－Check(評価)－Action(改善)のサイクルを確立するために、各学校の実情に応じた評価項目を設定し、自己評価を行うとともに、学校評議員制度を活用した関係者評価を行い、評価結果を学校運営に活かす。

⑥ 社会科副読本の活用

平成23年3月に発行し、平成29年4月に一部改訂した小学校3・4年生用社会科副読本「わたしたちの酒々井町」を活用し、子どもたちの町への関心を高めるとともに、町への理解を深め、郷土意識を育む。

⑦酒々井学の推進

児童生徒に「ふるさと意識」を育むことをねらいとしている。地域素材を教科等の学習内容と関連づけたプログラムを作成し、推進する。

(2)教育相談・生徒指導の充実

いじめ、不登校など児童生徒に関わる諸問題への積極的な対応を図り、生徒指導上の課題の解決を目指す。

①生徒指導担当者、教育相談担当者の活動の充実

「心の教育推進会議」を開催し、生徒指導上の諸問題について協議し、各学校における生徒指導の一層の充実と学校間の連携を図る。また、個別の問題行動や不登校児童生徒に関する「ケース会議」を開き、スクールカウンセラーを講師に対処方法について協議することで、より実践的な取り組みを進める。

②教育相談事業の充実

町の教育相談のネットワークを整備し、スクールカウンセラー、不登校支援教員（中学校）及び学校適応専門相談員（町教委）のそれぞれの専門性を生かし、各学校の生徒指導主任、教育相談担当、養護教諭、学級担任と連携して教育相談体制の確立に努める。

③教育支援センター（適応指導教室）の充実

不登校児童生徒の集団生活への適応力の向上を図り、在籍校への復帰を支援するために、酒々井町教育支援センター「ふれあいルーム」を設置し、学校適応専門相談員を配置する。各小中学校へ積極的に訪問し、適応指導の支援・助言を行う。



適応指導教室

(3)人権・同和教育の推進

酒々井町は平成7年12月8日に「あらゆる差別撤廃・人権尊重都市」宣言をしている。人権・同和教育の推進・充実は学校教育の責務であり、その推進を図るための講演会、授業研修会などを開催するほか、推進資料を刊行し、全教職員が共通の認識のもとに教育活動を進める。

①人権・同和教育担当者会議の開催

人権・同和教育の推進を図るため、各学校の人権・同和教育担当教員、教育委員会担当者による定例会議を開催し、人権・同和教育担当教員の指導力の向上に努め、町内の教職員研修会の企画・運営、各学校の人権・同和教育の実践について協議し、連携・推進を図る。

②人権・同和教育研修会の開催

大室台小学校を平成29・30年度町教育委員会指定の人権・同和教育推進校として、研究・推進の中核をなすとともに、学校の夏季休業中に全教職員を対象とした人権・同和教育研修会を開催する。

③「酒々井町の人権・同和教育」の刊行

各学校の人権・同和教育の実践についてまとめ、人権・同和教育推進資料「酒々井町の人権・同和教育（第29集）」を刊行し、研修・実践に活用する。また、町内3校の児童生徒による「小中学生人権作文集」を刊行し、全家庭に配布して児童生徒及び保護者の人権意識の高揚に努める。

(4)保小中連携推進事業の充実

保育園・小学校間、小・中学校間で相互の連携を推進し、学習の連続性や接続期の円滑化・生徒指導の共通理解等を図ることにより、教員の児童生徒理解を深め、指導方法や教育課程、学校運営についての改善を進める。



小中連携あいさつ運動

①小中連携指導5項目の実践化

保小中連携推進協議会を中心に設定した「小中連携指導5項目」を各学校職員、児童生徒、保護者、地域に向けて周知し、共通の指導方針に基づいて児童生徒の指導にあたる。



小中連携5項目

②2つの専門部による連携・指導の推進

小・中学校間においては、「研究・研修部」「生徒指導部」の2つの専門部をおき、児童生徒の指導をめぐる課題を協議するとともに、その解決・改善に向けて取り組む。

③学習の継続性に係る連携の推進

「教科等分科会」を設け、小・中学校それぞれの教科の指導内容に踏み込んで研修を進め、小・中学校間の学習の連続性を念頭においた指導にあたる。

(5)特別支援教育の充実

高機能自閉症、LD、ADHDなどの発達障害を含めた特別な支援を必要とする児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育的支援を行う。

① 各学校の支援体制の確立

校長のリーダーシップのもと特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を組織し、個々の児童生徒の実態を理解するとともに、個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用し、医師との連携や進学先でスムーズな支援が受けられるよう全教職員による必要な支援を行うように努める。



小中ふれあい交流会

②就学支援委員会の充実

就学支援委員会を年3回開催し、個々の障害の理解と各学校の支援体制の確立を図りつつ、児童生徒の将来を見据えた適切な就学支援を進める。

③特別支援学級における個別指導の充実

各小中学校に介助員・スクール支援員を必要に応じて配置し、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。

④特別支援連携協議会の充実

新就学児童に係る情報を共有し、個々の教育的ニーズに応じた支援方法について協議するために特別支援連携協議会を年2回開催し、関係機関との連携を図る。

(6)読書指導・図書館教育の充実

公共図書館（プリミエール酒々井）と学校図書館との連携を図り、児童生徒の読書活動の充実と図書館活用能力（情報活用能力）の育成に努める。

① 町内3校の学校図書館に司書業務を行うアシスタントを配置するとともに、学校間連携、学校と公共図書館との連携を進める。これらの人的配置により学校図書館の機能の充実・強化と児童生徒の指導の支援を行う。



アシスタントによる読書クラブの様子

② 児童生徒の生涯にわたる読書習慣の形成と図書館活用能力の育成を図るため、各学校の読書や授業における調べ学習等の指導・支援を行う。

(7)健康・安全教育の充実

児童生徒が自他の生命を尊重し、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を養い、安全で安心な学校づくりのため、学校保健・学校安全・学校給食などの各分野の充実を図る。

①養護教諭会議と研修会の充実

薬物乱用防止教育の推進、AED研修会の実施等、日々の保健指導等を通して、養護教諭が健康・安全教育の中核を担うとともに、生徒指導面においてもその役割を果たせるよう研修に努める。



薬物乱用防止教室

②学校安全への取り組みと通学路の改善

児童生徒にとって学校が常に安全に生活できる場として機能できるよう、施設設備の安全点検、交通安全に対する取組や指導に努める。

また、地域の防犯ボランティアや保護者と協力し、登下校時の児童の安全確保に努めるとともに通学路の点検や通学路安全マップの見直しなど学校安全についての指導・助言を行う。

さらに、新就学の児童には、半額補助により防犯ブザーの購入・携帯をすすめる。



通学路安全点検

③学校給食を活用した食育の充実

成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のため、また、食に関する指導の「生きた教材」となるよう献立内容の充実を図る。また、酒々井産農産物を活用するほか、栄養教諭による給食時の教室訪問などを行い、子どもの望ましい食習慣の形成や食に関する理解の促進に努める。

2. 社会の変化に対応した学校教育の推進

(1)情報化・国際化に対応した学校教育の推進

情報化・国際化が進展する中で、情報機器を選択して活用する資質や能力を育成するためにコンピュータの効果的活用を図る。英語に対する興味、関心を高めるために小学校における外国語活動を推進する。また、中学生によるドイツ及びオーストラリアへの国際交流派遣事業及び、国際交流受入れ事業を実施する。

①ICT教育の充実

各学校ともコンピュータ室や各教室などに計画的なICT整備を推進し、日常の学習活動に役立てると同時に、情報モラルやネット上のマナー指導に努める。また、コンピュータや電子黒板などのICTを活用した効果的な授業実践を目指す教職員の研修についても各学校で計画的に進める。

②ALT（外国語指導助手）の活用推進

ALT活用担当者会議を通して、小・中学校の外国語活動のねらいと指導方法についての実践的な取り組みについて研究する。

また、平成29年度より全小中学校に正規雇用のALTを配置し、小中学校9年間を通した国際理解教育を推進している。



ALTによる小学校外国語活動

③小学校外国語教育の充実

平成32年度より完全実施される新学習指導要領の円滑な実施のため、学習内容を前倒して実施する。そのため、5・6年生は週2回、3・4年生は週1回、1・2年生は隔週で1回の英語授業を行う。

④英語専科教員の配置

より専門的な英語指導のため、各小学校に1名ずつ英語専科教員を配置する。小学校5、6年生を中心に、担任、ALTとのT.T.による指導を行うとともに、指導方法、評価方法に関する校内研修では、講師として学校職員への指導を行う。

⑤国際交流派遣事業の実施

国際化に対応できる人材の育成を図るため、平成24年度から中学生をオーストラリアへ派遣している。また、平成29年度からはドイツへの派遣も実施している。

ホームステイや現地校での体験学習を通して、英語を中心とするコミュニケーション能力を育成するとともに異文化理解を深めている。

また、今年度はドイツ・ギムナジウムドルフェン校生徒20名を受入れ、中学校での生活体験等を通して、多くの生徒に国際交流の機会を与える。



国際交流派遣事業結団式

(2)キャリア教育の推進

児童生徒の発達段階に応じた勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育推進協議会」を設置し、町商工会やライオンズクラブ、町役場総務課・経済環境課との連携を図りつつ、学校教育への組織的な支援を進める。



小学校のキャリア教育(町立保育園)

3. 教職員の資質や指導力の向上

(1)教職員研修の充実

社会の変化や学校教育の担う課題に適切に対応できるよう、教職員の資質と指導力の向上をめざし、研修の充実に努める。

(2)教職員の健康管理の充実

教職員が健康で充実した教育活動を行えるように、定期健康診断と学校医のアドバイスにより教職員自らの健康意識の高揚を図る。

4. 教育条件の整備

(1)豊かな心を育むCTSプラン事業

新しい教育課題に積極的に取り組み、教育活動の充実に資するため、豊かな心を育むCTS (Child, Teacher, School-Society) プラン推進委員会を通じ各学校に補助金を交付する。

(2)学校図書館の充実

町独自で配置している学校図書館アシスタントを中心に学校図書館の環境整備・充実を図るとともに運営を工夫することにより、児童生徒が利用しやすい図書館づくりを進める。



学校図書館

(3)各種就学援助事業

小・中学校の特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の振興に資することを目的に、特別支援教育就学奨励費の支給などの援助を行う。また、経済的理由により就学困難と認める児童生徒の保護者に対し、要保護及び準要保護児童生徒の就学援助費を支給する。

(4)スクールバス運行委託事業

伊籾・伊籾新田地区、馬橋地区から酒々井小学校に通学する児童の登下校時の交通手段を確保するため、社会福祉協議会に委託し、町ふれあいタクシーを利用したスクールバスを運行している。墨地区に関しては、町所有のスクールバスを運行している。また、スクールバス及び京成電鉄利用児童の交通費については、町が負担することとしている。

(5)教職員の特色ある教育研究支援事業

各学校の特色ある教育活動の積極的な推進を図るため、各学校の教職員が提案する教育プランにおいて、児童生徒への教育効果が期待できる提案に対し、補助金を交付する。



特色ある教育研究支援事業プラン説明会

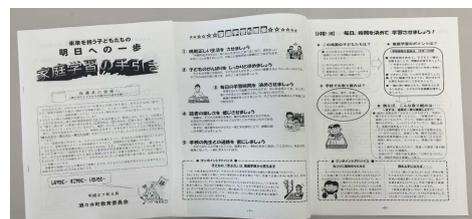
(6)部活動指導員配置事業

部活動に専門的な知識・技能をもつ部活動指導員があたることにより、安全で効果的な部活動指導を推進する。また、教職員の負担軽減にも寄与する。今年度は、酒々井中学校に2名配置する。

5 家庭との連携

(1)「家庭学習の手引き」の作成・配布

「家庭学習の手引き」を改訂し、小中学校新入学児童生徒家庭に配布する。これにより、家庭学習の充実を図り、学校と家庭の連携による「児童生徒の『確かな学力の向上』」に努める。

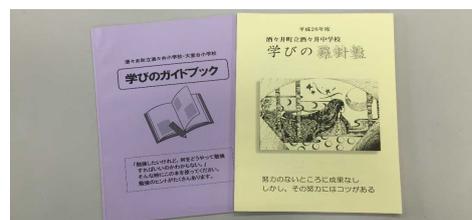


「家庭学習の手引き」

(2)家庭学習の充実

酒々井中学校では上述した「家庭学習の手引き」をより詳しく、学年別、教科別に示した学習ガイダンス「学びの羅針盤」を作成し、修正を加え改訂した。

この中には、学習の目標や方法、ノートの取り方などが



「学びの羅針盤」

具体的に示されており、生徒が家庭学習を行う上で大いに参考となっている。

また、小学校版として「学びのガイドブック」を作成し、小学校5・6年生に配布した。これにより、小中学校の連携を図りつつ家庭学習への支援が可能となった。

6. 幼児教育の支援

(1)適切な就学指導の推進

就学前の幼児を持つ保護者を対象に就学相談を行う。

(2)私立幼稚園就園奨励費補助事業の実施

幼児教育の振興を図るため、私立幼稚園へ通園する園児の保護者に対し、所得状況に応じて保育料等の一部を補助する。

(3)私立幼稚園運営費・教材費補助事業の実施

私立幼稚園の運営費・教材費に対して補助する。

(4)幼児ことばの教室「プラム」の実施

保健センターにおいて、ことばに障害のある幼児を対象に言語聴覚士による言語指導・教育相談を実施する。

(5)町立保育園での国際理解教育の推進

町立保育園では、小学校での英語教育につながる英語活動や子どもたちの基礎体力づくりのための体育指導を専門業者委託により実施している。

また、日本伝統文化に親しみを持つため、町内在住の指導者により茶道教室や書道教室を行い、保育内容の充実を図っている。



ことばの教室



町立保育園での英語活動

生涯學習

Ⅳ生涯学習／取り組み方向

1. 生涯学習の推進

第5次酒々井町総合計画、酒々井町教育振興基本計画、第1次酒々井町生涯学習推進構想及び第1期酒々井町社会教育計画に基づき生涯学習の推進を行っていく。

生涯学習に対する住民への啓発を図り、多種・高度化する学習要求に応じた学習機会を設けるとともに、生涯学習情報の提供に努める。

また、生涯学習の成果を地域づくりに活かせるよう、行政が取り組んでいる生涯学習関連事業・施策と住民が自主的に取り組んでいる事業の調整を図る。

《主要事業》

生涯学習事業への参加促進

(生涯学習課)

学習機会の拡充及び学習活動の支援事業

(中央公民館)

教育施設の施設管理及びサービスの充実

(中央公民館・図書館)



順大公開講座（レクリエーションスポーツ）

【生涯学習支援】

生涯学習の機運が高まるにつれ、成人教育の分野では、中高年の方の各種講座や行事への参加が多く見られ、各種講座受講後、自発的にまちづくり団体等を設置し、生涯学習を通じたよりよいまちづくりのために積極的に活動をしている。

今後は、さらに若年層の参加を促すような魅力ある学習プログラムを企画立案し、実施していくことが望まれる。

また、女性団体、PTAなどの各種社会教育関係団体の果たす役割は大きいため、これらの団体の活動が活発になるよう支援していく。

さらに、学習した成果を地域や社会へ還元できるよう、行政・民間・企業などとの連携を図る。

(1) 家庭教育学級の運営

子どもにとって家庭は、すべての教育の出発点であり、人間形成の行われる最初の場であり、子どもの健やかな成長を図る上で親の果たす役割は非常に大きい。多様に変化する社会の中において「生きる力」を子どもの発達段階に応じて適切に育成していくために、家庭教育の充実を図る必要がある。そこで、保護者が子どもの教育を行うための心構えや子どもへの理解、家庭教育上の共通の課題について学習する機会として、家庭教育学級を設置している。運営は学級生の自主運営とし、専任の家庭教育の指導者として家庭教育指導員を配置し、学級の運営及び学習内容の充実を図り、家庭教育力の向上に努めていく。

- ① 開設学級 酒々井小学校全学年保護者、大室台小学校全学年保護者、酒々井中学校全学年保護者、地域の家庭教育学級「ローズマリー」計4学級

- ② 開設基準 年6～10回（2時間～3時間）程度
- ③ 学習方法 講師・助言者を招いての講義・講話・討議のほか、見学・体験等学習活動の多様化に努める。
- ④ 学習内容 学級生の学習要求や必要課題を把握し、それに基づいて学習内容を組み立てていく。共通テーマとして人権教育について年3回位置付ける。（合同開級式・閉級式・夏季講演会）
- ⑤ 学習のまとめの発行 学習したことをどう受けとめ、今後どう活かすか等、1年間の活動を振り返るとともに学習活動の評価及び成果について「まなび」として冊子にまとめる。



ローズマリー学級（乳幼児の応急措置）

（2）学習活動支援

- ① 順天堂大学に委託し親子向けの生涯学習公開講座を開催する。
- ② 公民館主催事業として、しすい青樹堂、青樹堂師範塾、各種講座、教室等を開催する。町文化の振興のために結成された酒々井町文化協会への事業に助成を行うとともに、町民文化祭への助成を行う。（p.40－p.44 公民館の項参照）

（3）社会教育関係団体への助成

- ① P T A連絡協議会
町内の小中学校3校の単位P T Aの連絡会として組織し、子どもの健全な育成を図るために3校合同で行う校外指導や教育講演会、研修会等の事業に対して助成を行う。
- ② 婦人会
環境美化、健康管理運動や印旛沼水質汚染防止運動の支援などの事業や、婦人の地位・教養の向上のための研修などの活動を行っており、これらの事業について助成を行う。
- ③ 文化協会
酒々井町の文化発展に寄与することを目的とし、町内の各種文化団体が加盟している。町民ギャラリーや展示会への事業に対して助成を行う。（p.26 文化・芸術に詳細を記載）

(4) 盛年式

本年度60歳を迎える方々の節目の祝いとして、今後の人生を充実させるための学びと、培った力を地域で活かす契機の間として「平成30年度盛年式」を開催する。

- ① 日 程 平成31年2月24日（日）
- ② 会 場 中央公民館
- ③ 内 容 式典、講演及び団体紹介等



盛年式で挨拶をする小坂町長

2. 青少年健全育成

青少年を取り巻く社会環境が急激に変化していく中、自ら学び、自ら考えて問題を解決していく資質や、他人と協調し、また他人を思いやる心などの「生きる力」を育成していくことが必要である。そのために学校・家庭・地域社会がそれぞれの教育機能を果たしていくとともに、相互に連携・協働しながらその充実を図っていくことが必要となる。

これらを踏まえ、多様な主体による青少年の健全育成事業を行う。

(1) 子ども会育成会連絡協議会

《目的》子ども会会員相互の交流を目的とした事業を実施し、子ども会の連帯と単位子ども会の育成を図る。

《事業》

- ① 子ども会ふれあい球技大会
スポーツ活動を通じ子ども同士の連携と所属を越えた子どもたちの交流を図ることで健全な育成を推進する。
- ② 子ども会体験教室
子どもたちが、レクリエーションや集団活動を通じて協力・協調の精神を養っていくことを目的に様々な体験活動を実施する。

(2) 町青少年相談員連絡協議会

《目的》青少年と真に一体となり、ともに喜び、ともに語り、青少年の相談相手となる青少年相談員の事業として、地域での育成活動の積極的な推進を図り、青少年の健全育成に資するため独自事業と各団体と連携した事業を行う。

《構成》町内13地区を基準に青少年相談員が配置されている。

《事業》

- ① 星空の映写会（人権を考える映画会共催）
夏休み期間中に、親子のふれあいと子どもたちに豊かな情操を身につけてもらうために、野外映画会を開催する。
- ② 愛のパトロール
青少年の健全育成を図るため、夏休み期間中町内のパトロールを行う。

- ③ オールナイトハイク
夜間に長距離を集団歩行するという体験を通して、協調性や忍耐力を育むとともに、青少年相互の友情の輪を広げることを目的に実施する。
- ④ 親子たこづくり教室・たこあげ大会
たこづくり・たこあげを通し、モノづくり遊びを通じ親子のふれあいを深めることを目的に実施する。
- ⑤ 他事業への協力
町子ども会事業（子ども会ふれあい球技大会）
町スポレク祭（青少年相談員ふれあい綱引き大会）
- ⑥ その他
印旛地区青少年のつどい大会
印旛郡市内の小学5・6年生及び中学1・2年生を対象に、団体活動を通して交流を深めるため郡内青少年相談員主催で体験教室等を行っており、当町からも参加を予定している。
各研修会・会議への参加
印旛地区青少年相談員研修会や青少年非行防止会議等に参加する。



子ども会ふれあい球技大会



青少年相談員事業（オールナイトハイク）

（3）成人式

成人になったことを自覚し、社会的連帯と自立の精神のもと、未来をたくましく生き抜こうとする青年の門出を祝い励ますため、成人式を行う。

また、新成人該当者の中から代表として10名程度の成人式実行委員会を組織し、自主的な企画運営を行う。

- ①日 時 平成31年1月13日（日）
- ②場 所 プリミエール酒々井
- ③内 容 式典
新成人意見発表
記念写真撮影



3. 人権教育の推進

人権の尊重が平和の基礎であるということが世界の共通認識となり、我が国においても、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」（平成12年）が成立・施行され、この法律の趣旨に則り「人権教育・啓発に関する基本計画」（平成14年）が策定され、あらゆる場を通じて人権教育を推進し、人権という普遍的文化を構築するための活動がなされている。

酒々井町教育委員会では、これまでの人権教育の取り組みと、その成果と課題をもとに、より充実した教育・啓発事業等を展開することにより、人権に関する知識、情報や技能を伝え、人権意識を高めるための基礎づくりの推進に努める。

《基本施策》

あらゆる場を通じた人権教育の推進に努めるとともに、以下の項目を重点課題とする。

- ①人権教育の効果的推進
- ②人権教育推進のための指導者養成・職員研修の充実
- ③関係機関との協力関係の強化

(1) 人権教育推進事業

- ① 人権教育推進協議会の開催（年間1回予定）
- ② 主催事業における人権学習
 - ・家庭教育学級
 - ・酒々井町青樹堂
- ③ 啓発物資の貸し出し（ビデオ・DVD）
 - ・啓発冊子の配布

(2) 地区住民の社会教育活動の推進（同和対策集会所事業）

- ①小・中学校学力向上学級
- ②ふれあい生け花教室

(3) 人権教育推進のためのセミナーと指導者育成の研修

- ①人権教育セミナー（年6回）

	期日・時間・場所	内 容（共催団体）	講 師
1	6月1日（金） 午後3時00分から 会場：隣保館	「部落差別解消推進法の制定を受けて」 （人権ふれあい講座）	（一社）千葉県人権センター 鎌田 行平 氏
2	6月15日（金） 午前10時00分から 会場：中央公民館	「パラリンピック（ボッチャ）を体験しよう」 （オリ・パラ事業、酒々井町青樹堂、 家庭教育学級講演会）	北京・ロンドン・リオパ ラリンピック日本代表 廣瀬 隆喜 氏

3	7月26日(木) 午後2時00分から 会場：プリミエール	「ぼくは13歳 職業 兵士。～ウガンダ の元子ども兵から教わったこと～」 (酒々井町青樹堂、家庭教育学級講演会、 学校人権研修会、平和を考える朗読会)	認定NPO法人テラ・ルネ ッサンス 栗田 佳典 氏
4	12月5日(水) 午後2時00分から 会場：中央公民館	「オリンピック開催と人権の国際化」 (人権ふれあい講座)	(一社)千葉県人権センター 鎌田 行平 氏
5	1月18日(金) 午後1時30分から 会場：プリミエール	「夢と絆」	新潟産業大学経済学部 准教授 蓮池 薫 氏
6	2月14日(木) 午前10時00分から 会場：プリミエール	「木久蔵流、がんばらない子育て」 (酒々井町青樹堂、家庭教育学級講演会、 男女共同参画講演会)	落語家 林家木久蔵 氏

②人権・同和教育研修会(行政・教職員初任者・転入者)

③社会人権教育中央研修会(県主催)等への参加

(4) 学校人権・同和教育との連携

①学力向上学級保護者会(年間4回)

②人権・同和教育担当者会議(月1回)

(5) 人権標語・人権擁護に関する作文への協力(人権推進室事業)

4. 学校支援体制の確立

平成18年の教育基本法の改正に伴い学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力の規定が新設され、平成23年度からは学校教育を支援する学校支援地域本部事業が全国的に開始されている。

酒々井町でも町立学校の教育活動の更なる充実及び発展を図るために、地域社会の協力のもとに学校支援地域本部を設置した。

平成28年度から新たに、中学生を対象とした学習支援「地域未来塾」を開始。学校支援コーディネーターを中心に、元教員や教員を目指す大学生等による英語・数学の学習支援を実施している。

(1) 学校支援活動事業

①支援運営委員会の開催(教育支援活動等の運営方法等を検討)

②学校支援コーディネーターの設置

*学校支援地域本部活動は、学校からの要望を学校支援コーディネーターが調整し、町民や団体等のボランティア活動により成り立っている。

*学校支援活動

- ・学習補助・英語教育等の環境整備・農業体験・学校行事支援
- ・下校の見守り・プール指導の見守り 等

③地域未来塾の実施

*中学生を対象とした、元教員や大学生等による学習支援を行う。

日曜日、中間テスト前の放課後、夏季休業中に年37日実施予定。



学校支援地域本部でのピオトップ整備
(大室台小学校)



地域未来塾(酒々井中学校)

(2) 休日等の教育支援

文部科学省では、学校、家庭、地域の三者が連携し、役割分担しながら、学校における授業、地域における多様な学習や体験活動の機会の充実などに取り組むことにより、土曜日の教育環境を豊かなものにすることが必要であると、平成26年度から補助事業を開始した。

《目的》 酒々井町では、子どもたちの豊かな人間形成を育み、確かな学力の定着に向けた学習プログラムを提供することを目的とし、休業日である土曜日に子どもたちが進んで学習や活動に取り組む場として、こども青樹堂を開設する。

《事業》 こども青樹堂(3・4年)：3・4年生を対象に平成22年度から実施している。

こども青樹堂(5・6年)：5・6年生を対象に平成26年度から実施している。

土曜日の午前、2時間の講座をそれぞれ年16回ずつ実施する。



こども青樹堂(3・4年)



こども青樹堂(5・6年)

5. 文化・芸術の振興

古い歴史を持つ当町には千葉氏の居城であった本佐倉城跡をはじめとする史跡や、墨・馬橋・上岩橋の獅子舞など様々な祭りが今なお人々に受け継がれている。また、町内の所々に石仏などの庶民文化が数多く残されている。これらの保存・伝承に努め、町民の郷土への関心を高めることに努める。

(1) 文化財審議会

文化財の指定、保存及び活用にかかる諮問に答申するとともに、調査研究を行う。

(2) 文化財パトロール

町内の指定文化財等の巡回を行う。

(3) 文化財保護団体の育成

○郷土研究会

○酒々井ふるさとガイド 等

(4) 本佐倉城跡の保存・整備

本佐倉城跡は戦国時代を通じて千葉氏の居城であり、下総の中心地として栄えた。この千葉県を代表する中世城郭である本佐倉城跡が国史跡に指定されたことにより指定地の公有化を行った。また、今後の利活用を図るため、史跡整備事業を実施する。



本佐倉城跡（国指定史跡）

(5) 史跡ウォーキング

「歴史のまち酒々井」をアピールするため、町内に数多く所在する寺社、史跡、名所、旧跡等の貴重な文化財や豊かな自然環境をめぐるウォーキングを各種団体と共同で実施し、町内外へ向けての情報発信とともに、町の観光振興・交流人口の増加を図る。

(6) 文化財保存事業

○町指定文化財修理保存 ○埋蔵文化財調査 ○墨古沢南Ⅰ遺跡保存整備事業

◎郷土研究会

郷土の歴史、地誌、文化等郷土の研究・調査を目的とした町民の団体。

会員 140名

○町内史跡めぐりハイキング ○史跡見学会 ○野草の会・名勝探訪

○郷土史講座 ○史談会 ○文化財保護活動 ○会報発行

◎文化協会

昭和59年3月、町内にある各種文化団体相互の交流を深めるとともに、町文化の発展に寄与することを目的として組織され、平成30年5月現在49団体、668名の会員を有する規模となっている。

○美術展・町民ギャラリー（役場庁舎内）への常設展

○チャリティ芸能発表会

○機関紙「樹」発行 ○印旛郡市文化フォーラム参加

指 定 文 化 財 一 覧 表

区分	番号	種別	名 称	所在地・指定地 伝承地（番地）	所有者 指定者 伝承者	指定年月日	周知 施設 有無
国	1	史跡	本佐倉城跡	本佐倉765-2他	酒々井町	H10. 9. 11	○
	2	重文美	銀板写真（田中光儀像）〈エリファ レット・ブラウン・ジュニア撮影／一 八五四年〉	東京都写真美術館	個人	H18. 6. 9	—
県	1	千有 167	銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像	上本佐倉206	清光寺	S56. 3. 13	○
	2	千有 206	木造阿弥陀如来座像	上岩橋1664	長福寺	S62. 2. 27	○
	3	千有 207	木造持国天・多聞天立像	上岩橋1664	長福寺	S62. 2. 27	○
	4	千有 153	鑄銅雲版（応永二十二年在銘）	伊篠字辻屋敷647	浄泉寺	S52. 3. 4	○
	5	千有 189	天正検地帳（下総・印東庄中台郷御縄打水帳）	下台	古川正男	S57. 4. 6	—
	6	千無 43	墨の獅子舞	墨区	墨獅子講	S42. 3. 7	○
	7	千天 43	上岩橋貝層	酒々井字西井戸47-3他	個人	S50. 3. 28	○
	8	千無 66	武術 天真正伝香取神道流	尾上	個人	H16. 3. 30	○
町	1	有建 17	経胤寺本堂	本佐倉字西屋上り21-1	経胤寺	S52. 3. 29	○
	2	有建 18	勝蔵院本堂	酒々井字馬場127-1	勝蔵院	S52. 3. 29	○
	3	有彫 1	木造十一面観音立像	本佐倉字向根古谷696-1	吉祥寺	S46. 11. 3	○
	4	有彫 2	銅造十一面観音座像	伊篠字辻屋敷647	浄泉寺	S46. 11. 3	○
	5	有彫 3	木造正観音立像	伊篠字辻屋敷647	浄泉寺	S46. 11. 3	○
	6	有彫 4	木造不動明王座像	酒々井字馬場127-1	勝蔵院	S46. 11. 3	○
	7	有彫 28	木造阿弥陀如来座像	伊篠字大畑719	松雲寺	H 3. 3. 30	○
	8	有彫 29	木造童子立像	柏木字谷津台562	新光寺	H 3. 3. 30	○
	9	有歴 7	浄泉寺文書二通	伊篠字辻屋敷647	浄泉寺	S46. 11. 3	○
	10	有歴 9	板石塔婆（永徳三年在銘）	上岩橋	個人	S46. 11. 3	—
	11	有歴 10	石造追分不動道標	上岩橋	個人	S46. 11. 3	—
	12	有歴 15	島田長右衛門家文書	酒々井	個人	S52. 3. 29	—
	13	有歴 16	佐倉七牧大絵図	酒々井	個人	S52. 3. 29	—
	14	有歴 20	酒々井駅古松碑	酒々井字内方167-6	酒々井町	S52. 3. 29	○
	15	有歴 21	柏木の庚申塔（正徳二年在銘）	柏木字谷津台562	新光寺	S52. 3. 29	○
	16	有歴 22	本佐倉の庚申塔（享保十年）	本佐倉字南大堀383	本佐倉区	S52. 3. 29	○
	17	有歴 23	酒々井の庚申塔（正徳元年）	酒々井字横町1839-1	東光寺	S52. 3. 29	○
	18	有歴 24	大日如来供養塔（寛文十三年）	酒々井字横町1839-1	東光寺	S52. 3. 29	○
	19	有歴 25	飯積村道標（寛政十一年）	飯積字鍛冶畑地先	個人	S52. 3. 29	○
	20	有歴 31	慶長九年検地帳（小神村御縄打水帳）	尾上区	尾上地区	H 3. 3. 30	—
	21	有歴 32	慶長九年検地帳（馬橋郷御縄打水帳）	馬橋区	馬橋地区	H 3. 3. 30	—
	22	有歴 33	慶長九年検地帳（上岩橋郷御縄打水帳）	上岩橋	個人	H 3. 3. 30	—
	23	有歴 30	柏木の六地藏	柏木字谷津台562	新光寺	H 3. 3. 30	—
	24	有絵 34	紙本著色鬼子母神図（附 紙本著色 日蓮聖人図及び法華曼陀羅二幅）	酒々井字馬場127-1	勝蔵院	H11. 9. 6	—
	25	工芸 27	勝福寺鰐口	墨	個人	S62. 12. 15	—
	26	無民 11	上岩橋の獅子舞	上岩橋区	上岩橋獅子舞保存会	S46. 11. 3	—
	27	無民 19	馬橋の獅子舞	馬橋区	馬橋獅子舞保存会	S52. 3. 29	—
	28	史跡 12	カンカンムロ横穴群	酒々井558-2他	個人	S46. 11. 3	○
	29	天記 13	飯積の大杉	飯積字堀ノ内293	伊豆神社	S46. 11. 3	○
	30	有民 35	下宿麻賀多神社山車人形及び山車	酒々井字内方204-1	下宿麻賀多神社	H19. 10. 5	—
国 登 録	1-6	登建 1	飯沼本家（主屋、離れ屋、甲子蔵、明治 蔵、前蔵、裏門及び塀）	馬橋字場場106-1他	株飯沼本家	H29. 10. 27	—
町 登 録	1	登建 1	島田長右衛門家（店舗兼住宅一棟）	酒々井1688-1	個人	H24. 12. 21	○
	2	登建 2	島田政五郎家（店舗兼住宅一棟）	酒々井1688-2	個人	H24. 12. 21	○
	3-5	登建 3	筋吉五郎家（店舗兼住宅一棟、添蔵、 棟門）附土蔵、レンガ塀	酒々井1636-1	個人	H27. 10. 29	—
地 域	1	地名勝 1	飯積の泉	飯積字堀ノ内269他	飯積の里整備計画友の会	H25. 12. 27	—

6. スポーツ・レクリエーションの推進

(1) スポーツ・レクリエーション祭

町民の健康増進・体力づくりを目指して、「いつでも、どこでも、だれでも」手軽にできるスポーツを普及させるとともに地域・世代間の交流を発展させることを目的とし、多数のレクリエーション種目を行う。

◎ 実施種目

綱引き、ソフトバレーボール、ディスクゴルフ、グラウンドゴルフ、バドポン、インディアカ、体力測定等



スポーツ・レクリエーション祭(綱引き)

(2) スポーツ団体の育成

◎ スポーツ少年団 スポーツを通して、少年たちの健康な体と心を育てることを目的とする。

○ 酒々井ビッグアローズ ○ 酒々井ジャガーズ

◎ インディアカ協会 インディアカの発展充実に努めるとともに、他市町村の関係諸団体と交流を深めながら、町民相互の親睦と心身の健全育成を図る。

○ 7チーム (30名)

(3) スポーツ推進委員連絡協議会

① 目的 町の生涯スポーツ振興のため、住民に対し軽スポーツを広く普及させ、同時に地域交流の推進を目的に実技指導や指導助言を行う。

② 構成人数 18名(委員長1、副委員長2、委員15)

③ 主要事業

◎ ウォークラリー大会

歩く楽しさ、自然の魅力を味わいながら健康体力づくりを目的に開催する。



最近実施したコース：本佐倉コース、伊篠コース、東酒々井コース

◎ ライトスポーツクラブ

『いつでも、どこでも、だれでもすぐできる軽スポーツ』の体験の場を提供することで、生涯スポーツを推進するとともに、スポーツを通じた相互交流を発展させ、自主団体の育成に資することを目的として開催する。

※毎週水曜日（19：00～21：00）酒々井中学校体育館で開催



○実施種目

- ・ バドポン
- ・ ソフトバレーボール
- ・ ラージボールテニス
- ・ ラージボール卓球
- ・ ミニバレーボール
- ・ 室内ペタンク
- ・ ノルディックウォーキング
- ・ ソフトフットサル
- ・ フロアカーリング

(4) 体育協会

① 目的 各種大会を通じて専門部の技術向上を図るとともに、スポーツ団体を育成し、町民体育・スポーツ振興を図る。

② 構成人数 17団体 約700人
種目：陸上競技・軟式野球・バスケットボール・バレーボール・剣道
柔道・弓道・テニス・ソフトテニス・ソフトボール・卓球・バドミントン・クレール射撃・空手道・ゴルフ・サッカー・グラウンドゴルフ

③ 主要事業

◎ 専門部事業

- | | |
|--------------|-----------------|
| (1) テニス部 | テニス大会・テニス教室 |
| (2) ソフトテニス部 | ソフトテニス大会 |
| (3) 卓球部 | 卓球大会 |
| (4) ゴルフ部 | ゴルフ大会 |
| (5) バドミントン部 | バドミントン大会 |
| (6) ソフトボール部 | ソフトボール大会 |
| (7) 陸上競技部 | 駅伝競走大会 |
| (8) 軟式野球部 | 野球大会 |
| (9) 柔道部 | 柔道教室 |
| (10) 剣道部 | 剣道教室 |
| (11) 空手道部 | 空手道大会・空手道教室 |
| (12) クレール射撃部 | 定例競技会 |
| (13) サッカー部 | 少年サッカー大会・サッカー教室 |
| (14) バレーボール部 | バレーボール大会 |



◎ 派遣事業

- (1) 郡市民体育大会選手派遣
- (2) 県民体育大会選手派遣
- (3) 印旛駅伝競走大会選手派遣



(5) 社会体育施設

【墨スポーツ広場】

- ◎ 竣工 昭和61年10月
- ◎ 面積 15,250㎡
- ◎ 施設内容 野球場：1面

【公共用地】

- ◎ 竣工 昭和57年4月
- ◎ 面積 7,686.4㎡
- ◎ 施設内容 野球場：1面



施設紹介

V 施設紹介

1. 学校紹介

(1) 酒々井小学校

所在地 酒々井203番地
電話 496-1041
開校 明治41年
校長 猪鼻慎二
(平成29年度就任)

児童数	534人 [5月1日現在]
学級数	24 (特6含む) 学級
職員数	50人 (学校要覧)



根古谷環境保全会の方々のご協力で田植えを実施

● 経営の重点

【教育目標】

人間尊重の精神に徹し、豊かな人間性と健やかな心身を持つ実践力のある「酒々井小の子ども」の育成

【めざす児童像】 … 「し」んせつな子 「す」なおな子 「い」っしょうけんめいがんばる子

(アクション1) 「学習にねばり強く取り組む子」の育成

- ・学び合える授業
- ・家庭学習の充実
- ・酒々井っ子検定の実施等

(アクション2) 「進んで運動する子」の育成

- ・汗をかく体育の実践
- ・体育カードの充実
- ・外遊びの奨励 等

(アクション3) 「優しく思いやりのある子」

「自他の命を大切にする子」の育成

- ・ふれあい活動の充実
- ・人権同和教育の推進
- ・児童を主体とした特別活動の推進 等

(アクション4) 「明るい笑顔、すてきな挨拶が飛び交う学校」の推進

- ・しっかりとした挨拶や返事の推進
- ・不登校児童対策の推進
- ・美しい学校づくり (花のある学校・掃除の行き届いた学校) 等

(アクション5) 「美しい歌声が飛び交う学校」の推進

- ・朝の歌活動の充実
- ・すばらしい歌声が響く卒業式の実施
- ・オータムコンサートへの参加 等



異学年交流ふれあいタイム

● 学校の特徴

- (1) 異学年交流「ふれあい活動」により望ましい人間関係を育成する。1年生から6年生までの異学年グループを作って、一緒に遊び、給食を食べ、清掃活動を行う。日常的な人権・同和教育の実践活動として考える。
- (2) 児童一人ひとりの努力とやる気を引き出し、基礎学力を定着させる。そのため少人数指導・習熟度別指導を実態に応じて全学年で取り組む。
- (3) 学校支援地域本部を中心に、家庭・地域社会との連携を緊密にして豊かな体験活動を実現する。本の読み聞かせや総合的な学習の時間におけるハーブ学習、5年生の米作り・収穫祭、園芸委員会の活動等で保護者や地域のボランティアが教育活動に参加できるようにする。
- (4) 豊かな自然と歴史が伸びやかな心を育む。学校は中世の城下町「酒々井宿」跡にあり、近くには本佐倉城跡が整備されている。文化財と豊かな森は、生活科や総合的な学習の時間における学習材となり、児童の財産でもある。

(2)大室台小学校

所在地 尾上2番地2
電話 496-5281
開校 昭和57年4月2日
校長 吉村 忠広
(平成29年度就任)

児童数	427人[5月1日現在]
学級数	18(特5含む)学級
職員数	40人(学校要覧)



シンボルのくすの木と学び舎

●経営の重点

教育目標

心豊かで、ともに学ぶたくましい子の育成

目指す子ども像

相手を思いやる子ども・進んで学習する子ども・何事にも挑戦し互いに磨きあう子ども

合い言葉

「あいさつ」がいっぱい 「ありがとう」がいっぱい 「得意」がいっぱい

- (1)基礎・基本の習得を図り、個に応じた指導を工夫し、一人一人の学力の向上を目指す。
- (2)人権尊重の精神を養い、特別支援教育の充実を目指す。
- (3)子どもの自己実現を支援するため、児童理解に努めるとともに校内指導体制の機能を生かす。
- (4)子どもの健康安全に配慮し、一人ひとりの体力向上を目指す。
- (5)家庭や地域の声を真摯に受け止め、子どもをともに育てる環境づくりを目指す。
- (6)地域と連携し、安全で明るい学校環境づくりを目指す。



大室タイムの様子

●学校の特徴

- (1)学校支援地域本部活動による地域の方々や保護者ボランティアの協力を得て、学習支援・環境支援・英語学習環境づくり支援などを進めている。また、地域の人材を学校教育に積極的に生かすとともに、地域に根ざした魅力溢れる学校づくりを行う。
- (2)学校日より、ホームページ、授業参観、教育ミニ集会、学校評議員会の開催等を通して、家庭・地域とともに歩む学校づくりに努める。
- (3)日課表の工夫やミニタイム(15分)を活用し、読書指導や学習指導の充実を図る。
- (4)異学年交流の遊びの時間である「大室タイム」(月1回:昼休み)を通して異年齢集団の児童が思いやりの気持ちを持ち、よさを認め、励まし合う人間関係づくりを図る。
- (5)研究主題を「自分の思いや考えを伝え合う子どもの育成」とし、「考えをもつこと」「伝え合うこと」の向上に焦点を当てた国語科の授業研究に取り組む。
- (6)PTA、地域防犯ボランティア団体、地域住民の協力を得て、交通安全指導及び不審者への対応を図る。

(3)酒々井中学校

所在地 尾上141番地10
電話 496-1040
開校 昭和22年
校長 今井 俊幸
(平成30年度就任)

生徒数	557人 [5月1日現在]
学級数	21 (特4含む) 学級
職員数	51人 (学校要覧)



「目指そう! あいさつ日本一」

●経営の重点

子どもは学校で学び、家庭でしつけ、地域で育つ

教育目標

自ら学び心豊かでたくましい生徒の育成

- (1) 生徒一人一人を固有な存在として尊重し、調和のとれた人間形成を目指した教育を推進する。
【大前提】
- (2) 楽しく安定した学校生活の構築に努める。
【学校生活の基盤】
- (3) 人権教育を柱に道徳教育を推進し、豊かな心と社会性を育む教育に努める。【心を耕す】
- (4) 確かな学力の定着と意欲の向上を目指し、生涯学習の基礎となる学力の保障に努める。【学力向上】
- (5) 学校行事等を軸に、日々の学校生活の向上を目指す意識・意欲の醸成を図る。
【学校文化の継承】
- (6) 小中連携及び家庭や地域との連携を推進し、開かれた学校づくりに努める。
【連携推進】
- (7) 指導的立場にあるものとして教職員自らの資質能力の向上や使命感の高揚に努める。【教師への信頼】



「1年人権教室」

●学校の特徴

- (1) 保健体育ではT・Tによる授業を行い、数学(3学年)では、習熟度別少人数授業を行うなど、個に応じたきめ細かな指導を行う。
- (2) 全学年で共通した「自主ノート」を配布し、その活用を通して家庭学習の習慣づくりや質の向上を目指した指導を行う。また、学習の見通しを持って取り組ませるために、学習ガイダンス「学びの羅針盤」の活用を図る。さらに、学習優先日を設定し、数学・英語の補充学習を実施する。
- (3) 毎朝10分間の朝の「読書タイム」又は「ドリル学習」を実施する。また、ボランティアによる「読み聞かせ」の機会を定期的に設定し、読書に親しむ心の育成を図る。
- (4) 3学年生徒を対象に、英検受検料を1回分補助する。また、全学年を対象に、英検と漢検受検料の一部を補助することにより、学力向上への意欲化を図る。
- (5) 「目指そうあいさつ日本一」を掲げ、生徒会活動を中心に明るく礼儀正しい生徒の育成を図る。
- (6) 不登校支援教員を中心に校内適応指導教室の効果的運営に努めるとともに、スクールカウンセラーと連携した適応指導に努める。
- (7) 人権教育を教育活動の柱に据え、人権集会や人権作文等の取り組みを通して、生徒の人権意識の涵養を図る。
- (8) 町保小中連携推進協議会の組織を活用した教科指導の面での小中連携を推進するとともに、小中児童生徒の直接交流を積極的に行い、円滑な接続を図る。
- (9) 学校支援地域本部コーディネーターを中心に、地域ボランティアを活用した教育活動を推進する。

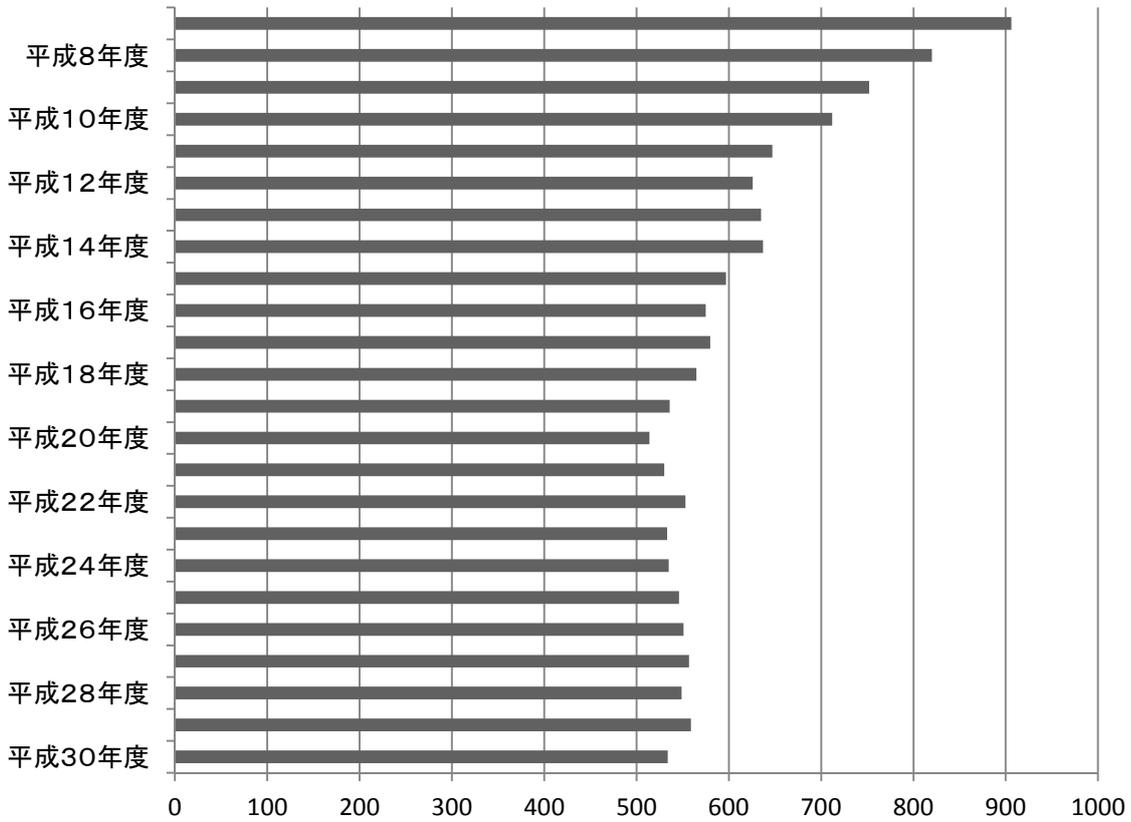
(4) 学校別児童生徒数の推移

(毎年5月1日現在人数)

学校名 年度	酒々井小	岩橋分校	墨分校	大室台小	酒々井中
昭和48	499	45	13		328
49	607	44	11		301
50	732	40	酒々井小に統合		295
51	837	35			288
52	930	27			346
53	1,031	20			400
54	1,307	酒々井小に統合			436
55	1,585				507
56	1,791				582
57	1,071			開校1,032	768
58	1,113			1,095	904
59	1,162			1,105	1,010
60	1,165			1,085	1,095
61	1,177			1,004	1,161
62	1,183			956	1,175
63	1,162			860	1,201
平成 元	1,200			831	1,187
2	1,180			740	1,153
3	1,129			627	1,135
4	1,071			562	1,106
5	1,024			490	1,032
6	985			455	941
7	906			363	874
8	820			348	830
9	752			327	757
10	712			301	672
11	647			297	616
12	626			287	584
13	635			290	540
14	637			288	496
15	597			330	474
16	575			360	467
17	580			365	481
18	565			400	462
19	536			455	469
20	514			520	463
21	530			569	462
22	553			599	465
23	533			627	468
24	535			642	477
25	546			622	495
26	551			576	539
27	557			556	560
28	549			524	578
29	559			470	563
30	534			427	556

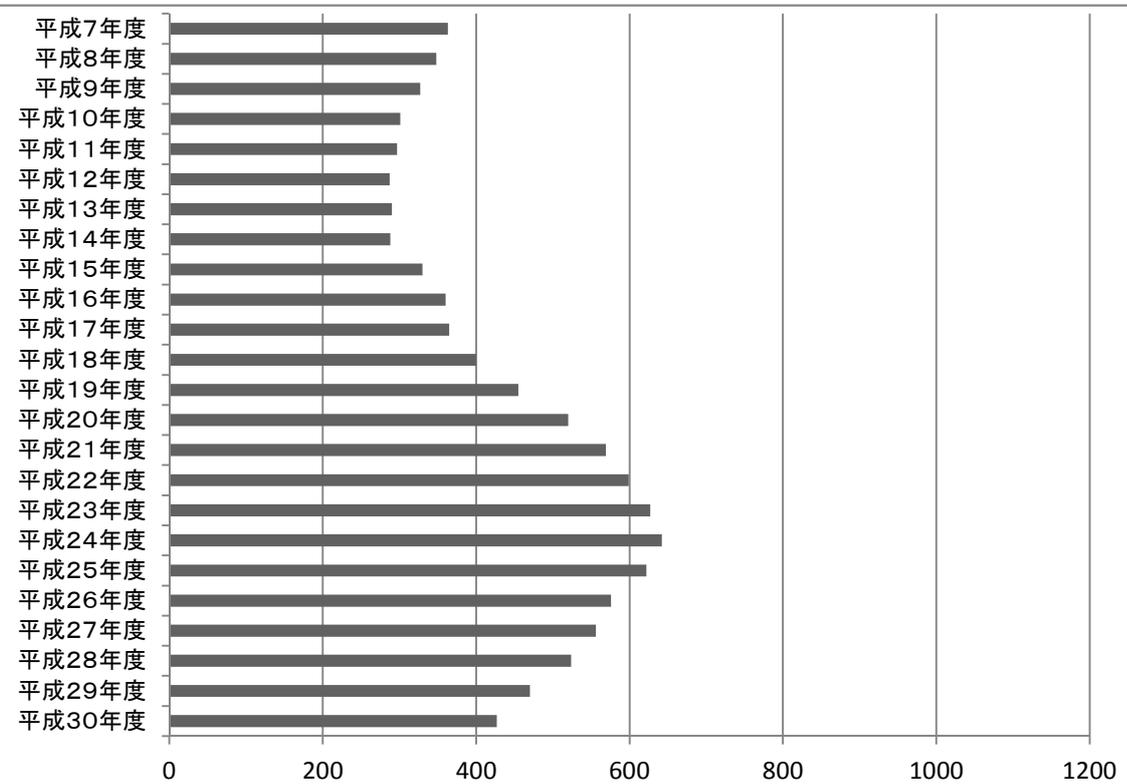
酒々井小学校児童推移

(5月1日現在) (人)



大室台小学校児童推移

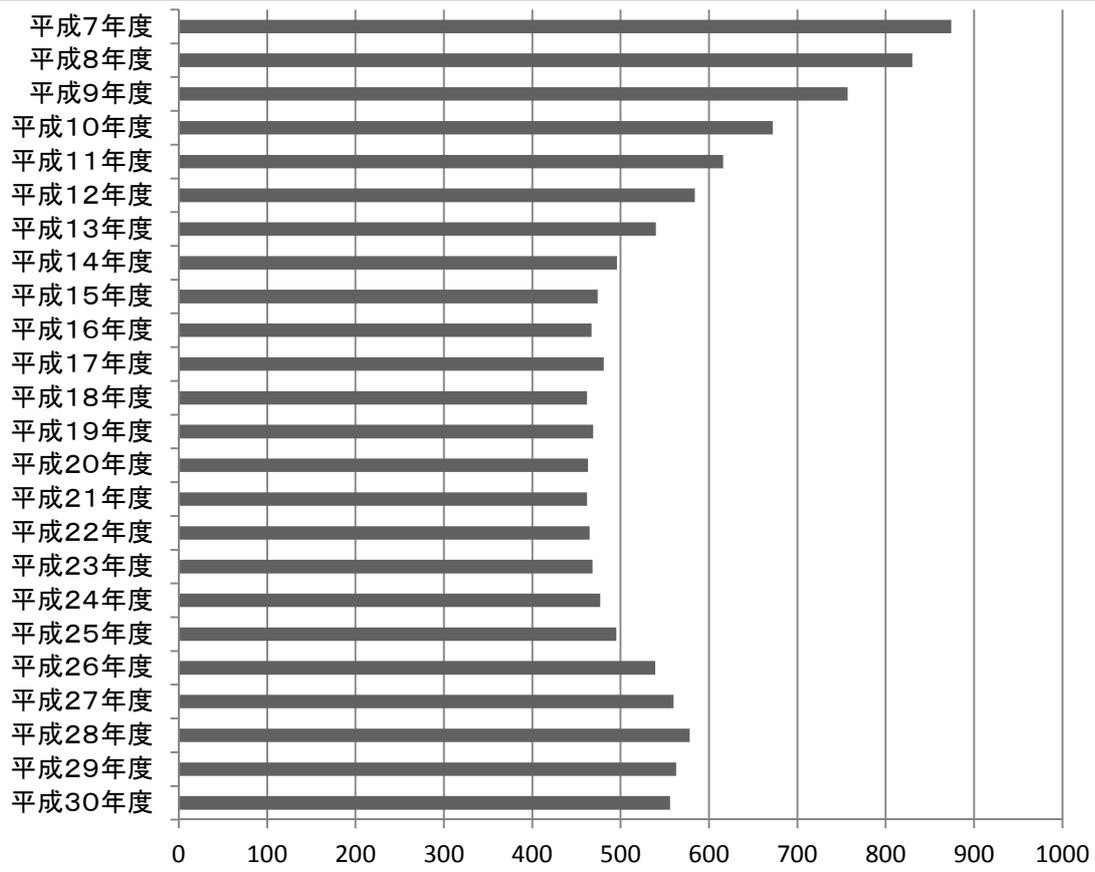
(5月1日現在) (人)



酒々井中学校生徒推移

(5月1日現在)

(人)



(5) 学校給食センター

施設の概要

所在地	酒々井167番地1
電話	496-1151
開設	昭和58年4月15日
給食開始日	昭和58年5月9日
敷地面積	2,694㎡
建物面積	834.36㎡
調理能力	3,000食/日



センター正面入口

○学校給食の目的

学校給食法に基づき、学校教育活動における健康教育として望ましい食事環境の下で、栄養バランスのとれた食事を提供し、児童・生徒の心身の健全な発達を図ることを目的とする。

○学校給食の目標

- ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- ⑤ 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- ⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化について理解を深めること。
- ⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。



給食指導授業風景「野菜となかよくなるう！」

○給食状況

①供給人数（教職員等含む）

小中別	学校数	人数
小学校	2校	1,051人
中学校	1校	603人
計	3校	1,654人

（平成30年5月1日現在）

②学校給食費（平成9年4月1日改正より）

小学校 月額 4,500円

中学校 月額 5,200円

※平成29年度から学校給食費の徴収管理を公費化した。平成29年9月からは、一定の要件のもと第3子以降の児童・生徒の学校給食費を免除する制度を導入した。

③学校給食供給回数（平成30年度）

小・中学校 193回／年度



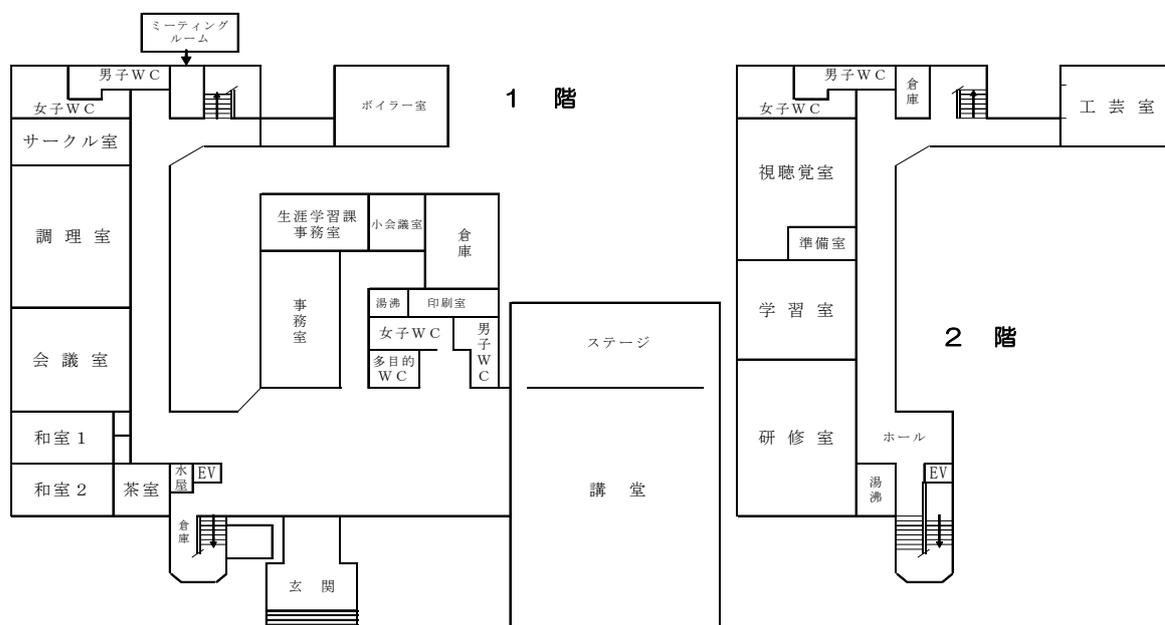
さつま汁の配缶

2 社会教育施設紹介

(1) 中央公民館

施設の概要

竣 工 昭和55年10月20日
 開 館 昭和55年11月 2日
 構 造 鉄筋コンクリート 2階建
 建物総面積 2,303.58㎡
 (内訳) 1階 1,566.53㎡
 2階 682.17㎡
 塔屋・機械室 54.88㎡
 敷地面積 8,074.65㎡



《1 階》

《2 階》

施設等	収容人員	施設等	収容人員
講 堂	400人	研 修 室	43人
和 室 1	15人	学 習 室	30人
和 室 2	15人	視 聴 覚 室	63人
茶 室	5人	工 芸 室	36人
会 議 室	30人		
調 理 室	36人		
サークル室	20人		

○ 運営方針

中央公民館は、社会教育法に規定された教育機関として、「つどい」・「まなび」・「つなぐ」を合言葉に、住民の学習意欲や課題に応えるため住民の自主的な学習活動を支援する。

また、町民が親しみやすく利用しやすい教育施設として、その機能を発揮するよう常に創意工夫をこらし、明日に活かす教育を大切にしながら次のような視点を持って講座運営に努める。

- ① 新しい生きがいの創造をめざす講座
- ② 国際化・情報化社会に対応するための講座
- ③ 文化活動を高めるための講座
- ④ 趣味を広げ情操を豊かにするための講座
- ⑤ 親子の関係を深めるための講座

○ 主要事業

酒々井町青樹堂（公民館主催事業の総称）

1 しすい青樹堂 《対象一般、1年生 年間23回、2年生 年間23回》

生きがいを持ちながら郷土愛を育み、地域の中で連帯感を持ちながら住み良いまちづくりを考え実践していく主役として共に学び行動する仲間づくりを目標とする。

【1年生学習内容】

学習目標	○町についての知識・理解を深めながら郷土愛を育む。 ○仲間と共に学ぶ中で、自らの生活やものの見方・考え方などを見つめ直し、「まちづくり」に主体的に関わろうとする意識を高める。
1	合同式典 入門式・修了証書授与式
2	合同学習 人権教育セミナーの聴講・講演「創年時代・市民活動の時代」
3	ホームルーム オリエンテーション・自己紹介・ネイチャーゲーム・次年度の年間計画
4	健康づくり ・福祉 健康体操・中高年の体力作り・薬と健康について・社会福祉協議会について・介護の現状について
5	地域活性 酒々井まちづくりフォーラム・酒々井町とアウトレット
6	行財政 町長講話・酒々井町の税金

7	歴史・郷土	酒々井町の歴史・本佐倉城跡見学・本佐倉城跡整備計画について・歴史視察（経胤寺・麻賀多神社他）・野草観察
8	文化	落語の世界
9	一般教養	大人の工作教室・救命講習
10	課外学習	ハーブガーデン・リサイクル文化センター・酒々井町を歩いてみよう・花見川終末処理場・加曾利貝塚・製氷工場・佐倉順天堂記念館・佐倉武家屋敷・旧堀田邸・成田空港整備工場
11	教育	酒々井町教育
12	ボランティア	酒々井小世代間交流

【2年生学習内容】

	学習目標	○一般教養を高め、自己の実践力の向上を図るとともに酒々井町への「郷土愛」を育む。 ○受講生の連帯感を育み「まちづくり」を共に学び、行動する仲間づくりを推進する。
1	合同式典	進級式・卒業証書授与式
2	合同学習	人権教育セミナーの聴講・講演「創年時代・市民活動の時代」
3	ホームルーム	年間学習計画・2年間の学習のまとめ・卒業に向けて
4	健康づくり ・福祉	中高年の体力づくり・生活習慣病・パークゴルフ
5	地域活性	酒々井まちづくりフォーラム・カレッジOBに学ぶ
6	行財政	町長講話
7	歴史・郷土	酒々井町の歴史・酒々井町歴史探訪・野草観察・酒々井の湧水
8	文化	七草を探そう食べよう・落語の世界
9	一般教養	これからの経済と暮らしの話・資産をめぐる話題・金融経済知識を活かす時代・救急講習
10	課外学習	花見川終末処理場・加曾利貝塚・製氷工場・佐倉順天堂記念館・佐倉武家屋敷・旧堀田邸・成田空港整備工場・千葉地方検察庁・千葉地方裁判所
11	地域 アニメーター	生涯学習とボランティア・地域活性の意義と事例・フォトコーディネーターの意義・フォトコミュニケーションとは・青少年の課題・おもてなしプロデュース

2 青樹堂師範塾 《対象一般、1年間23回》

まちづくり実践者としての活動だけではなく、まちづくりに参加する方々をサポートするまちづくり指導者の養成を目的とした学習内容を企画。

	学習目標	○学習を通して、『まちづくり』、『まちおこし』の実践者としてだけでなく、指導者としての資質を身につける。
1	合同式典	入門式・レポート発表・卒業証書授与式
2	合同学習	人権教育セミナーの聴講・講演「創年時代・市民活動の時代」
3	ホームルーム	年間学習計画・課題学習・卒業に向けて学習のまとめと発表
4	健康づくり ・福祉	健康体操・中高年の体力づくり・パークゴルフ・社会福祉協議会のボランティア活動について
5	地域活性	酒々井まちづくりフォーラム・青樹堂師範塾OBの実践に学ぶ
6	行財政	町長講話
7	文化	落語の世界
8	一般教養	演習：実践的コミュニケーション・講話：奥の細道竹馬行脚・救急講習
9	課外学習	花見川終末処理場・加曾利貝塚・成田空港整備工場・国立歴史民俗博物館
10	まちづくりの スキル	地域資源の意義と活用方法・ふるさとフォトコーディネーター・エコミュージアムを学ぶ・酒々井町の現状と活動（商工会青年部）・空き店舗をめぐる諸問題・先進事例に学んだこと 演習：身近なテーマで考える・グループ研究・レポート作成

3 コスモス会 日本語教室

日本語を母国語としない外国人を対象に、日本語を話す・聞く・読む・書く能力を育み、日常生活におけるコミュニケーション能力を高める。

平仮名、片仮名や簡単な漢字等の日本語の基礎学習。 日本の自然や文化に対して理解を深める学習。	《指導者》 学習ボランティア	通年土曜日 (30回)
---	-------------------	----------------

4 自由講座

◎ 町民文化祭

日頃の学習活動の成果を発表する機会を提供すると共に、町民の芸術・文化に対する関心を高め、生涯学習の理解を広げ、より多くの町民が参加する文化活動を推進する。そのために、参加者が主体の運営委員会組織を設置し、発表・展示・体験等内容の充実を図る。

◎ おじさんずライブ i n しすい

おじさんたちが元気に活躍する舞台を鑑賞し、元気をもらい、町が活性化することを目的とし実施する。(入場料無料)

◎ 館報「公民館だより」の発行

公民館事業の紹介や案内、また生涯学習にかかる情報を提供して、親しまれる館報づくりを推進する。

○ サークル・同好会

公民館を学習活動の場としているサークル・同好会を育成、支援する。

(※平成30年6月現在定期利用団体：93団体)

○ 公民館施設利用状況

年 度	開館日数 (日)	利用件数 (件数)	利用人員 (人)	1日平均 (人)
24	299	3,699	48,778	163
25	308	3,692	48,461	157
26	315	3,637	47,530	151
27	311	3,294	43,320	139
28	262	2,488	33,268	127
29	197	1,910	23,827	121

※平成28年2月から平成29年7月まで耐震補強工事実施による貸館中止の為、

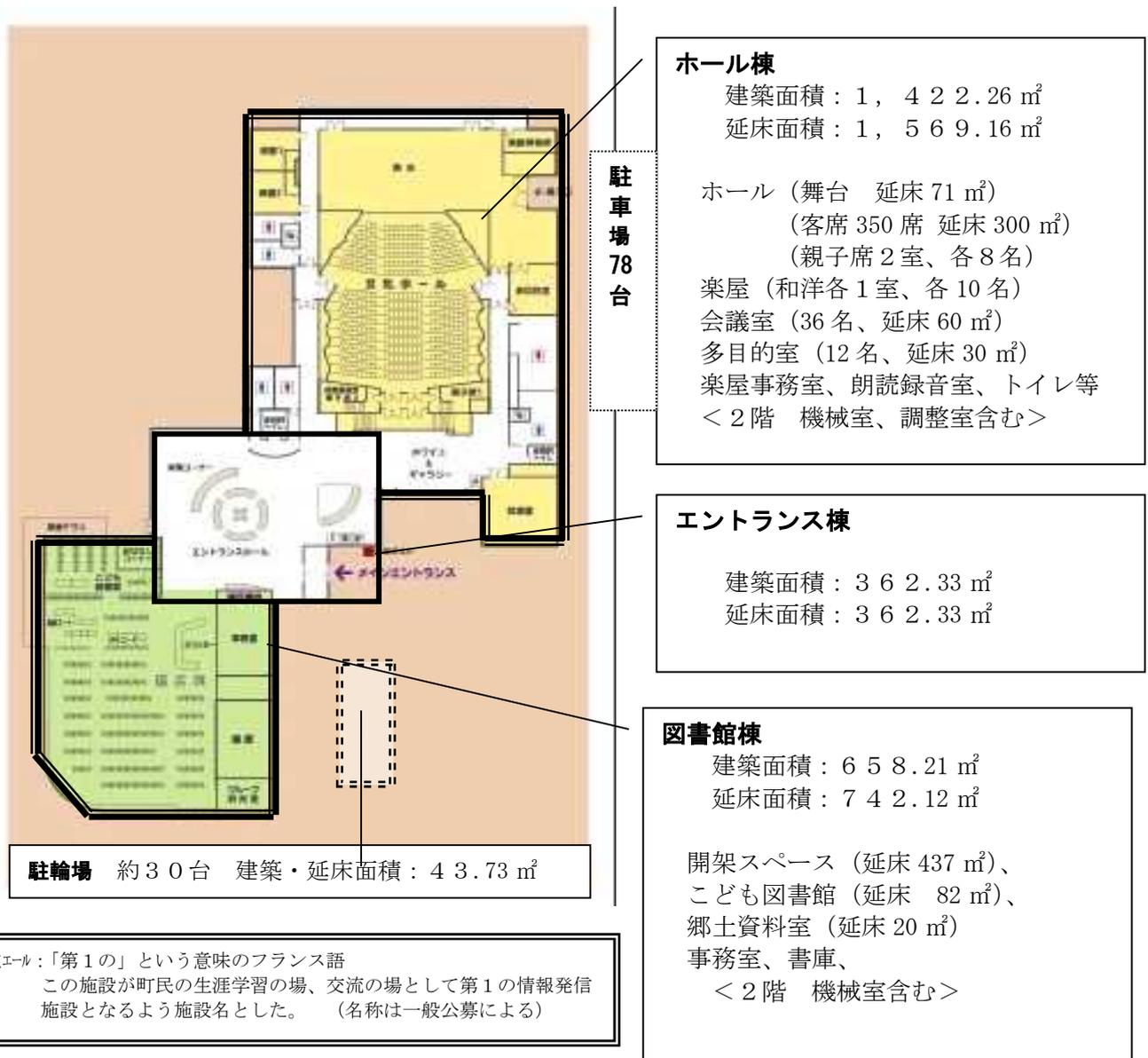
平成28年度は平成28年4月～平成29年1月までの数値。

平成29年度は平成29年8月～平成30年3月までの数値。

(2) プリミエール酒々井

施設の概要

- | | |
|---------|--|
| 1 所在地 | 中央台3丁目4番1 |
| 2 施設用途 | 文化ホール(350席)、図書館(最大8万6千冊)、エントランスホール
会議室、多目的室、楽屋(和洋各1室)、朗読録音室 |
| 3 階数 | 平屋建て、一部2階建て(機械室他) |
| 4 構造 | 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造(文化ホール) |
| 5 面積 | 敷地 約8,200㎡
建築 施設 2,442.80㎡(全体 2,486.53㎡(※))
延床 施設 2,673.61㎡(全体 2,717.34㎡(※))
※面積全体=施設+駐輪場 |
| 6 建設事業費 | 1,348,747千円 |
| 7 設計管理 | (株)梓設計 |
| 8 施行 | (1)建築工事:鹿島建設(株) (2)電気設備工事:モデン工業(株)
(3)機械設備工事:富士電機総設(株) (4)造園工事:(有)立田造園
(5)外構工事:鹿島建設(株)、新東建設(株) |
| 9 工期 | 平成14年4月から平成15年6月 |
| 10 開館 | 平成15年9月13日 (機関設置 平成15年7月1日) |



○運営方針

高齢化や自由時間の増大、情報化・国際化の進展など社会情勢の変化に伴い、生涯学習への関心が高まっている。プリミエール酒々井は町の生涯学習活動の拠点となる教育文化施設として、町民への情報援助、余暇活動支援など、新たな学習機会の発信施設として充実に努める。

○開館時間等

開館時間 プリミエール酒々井(文化ホール等)午前9時から午後5時まで
(夜間利用がある場合午後9時まで)

酒々井町立図書館 午前9時から午後5時まで

休館日 月曜日(祝日のときは開館)、祝日の翌日

(土日祝日の場合は平日に振替)、12月29日から1月4日まで

*図書館のみ休館 毎月第3木曜日(館内整理日)、

特別整理期間(年10日以内)

○主要事業

1 文化ホール

(1) 貸館事業

文化ホール等利用状況(平成29年度)

文化ホール等施設使用統計

H29.4.1～ H30.3.31	施設利用		開館日数	入館者数	一日平均 入館者数
	回	人			
	1,147	24,853	296	156,157	528

プリミエール酒々井利用回数 H25～H29年度比較

施設名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
文化ホール	151	117	151	156	159
楽屋(洋)※	41	32	56	67	70
楽屋(和)※	3	1	6	8	21
会議室	193	233	233	260	304
多目的室	160	220	206	323	380
朗読録音室	20	39	35	43	38

※単独利用の回数(通常は文化ホールに付随)

主なイベント等（平成 29 年度）

月	内 容	月	内 容
4 月	ピアノ発表会 カラオケ発表会 団体主催講演会 団体主催コンサート	10 月	自治会コンサート オータムコンサート ピアノ・コーラス発表会 マンドリン定期演奏会 青年式 民謡舞踊演歌発表会
5 月	ピアノ発表会 バレエ発表会 文化協会チャリティー芸能発表会 カラオケ発表会 津軽三味線コンサート ミュージックビデオお披露目会 団体主催講演会	11 月	町民文化祭 輝く創年とコミュニティフォーラム カラオケ発表会
6 月	舞踊発表会 ピアノ発表会 人権教育セミナー 食品衛生講習会 カラオケ発表会	12 月	ピアノ発表会 人権教育セミナー 昭苑幼稚園クリスマス祝会 クリスマスコンサート クラシックバレエコンサート 蛍雪学園クリスマス会
7 月	群市民体育大会総合開会式 ピアノ発表会 カラオケ発表会 ピアノ・エレクトーン発表会 人権教育セミナー	1 月	成人式 ピアノ発表会 特別支援学級合同学習会 人権教育セミナー 地域福祉フォーラム 団体主催コンサート
8 月	ピアノ発表会 バレエ発表会 団体主催講演会 3 バンドコンサート	2 月	人権教育セミナー ダンス発表会 団体主催講演会
9 月	酒々井フラフェスティバル フラダンス発表会 老人福祉大会 NPO 映画会 団体主催講演会	3 月	社会福祉大会 昭苑幼稚園発表会 管弦楽発表会 おじさんずライブ ヴァイオリンコンサート

2 図書館

(1) 図書館資料

蔵書数 82,293 冊 (平成 30 年 4 月 1 日現在)

平成 29 年度購入数

図書 2,557 冊

視聴覚資料 DVD6 点、CD49 点 計 55 点

購入金額 4,499,919 円

蔵書内訳

平成 30 年 4 月 1 日現在

区分	一般	児童	参考	郷土	AV	合計
0 総記	1,024	123	256	34	2	1,439
1 哲学	2,081	88	67	32	4	2,272
2 歴史・地理	5,609	779	354	470	14	7,226
3 社会科学	7,143	688	409	619	57	8,916
4 自然科学	4,829	1,466	213	117	22	6,647
5 技術・工学	5,447	552	109	106	22	6,236
6 産業	2,082	417	85	79	9	2,672
7 芸術	5,309	695	112	86	387	6,589
8 言語	884	212	244	16		1,356
9 文学	23,706	6,885	83	70	19	30,763
A AV					1,424	1,424
C 紙芝居		993				993
E 絵本		5,760				5,760
その他						0
合計	58,114	18,658	1,932	1,629	1,960	82,293
割合(%)	70.6	22.7	2.3	2.0	2.4	

(2) 奉仕

平成 30 年 4 月 1 日現在

登録者数	貸出者数	貸出冊数	予約冊数	返却冊数	開館日数
7,127 人	29,028 人	99,342 冊	6,634 冊	101,470 冊	283 日
リクエスト冊数	借用	読書通帳延べ数			
779 冊	1,574 冊	803 冊			
コピー		AVブース	グループ研究室		インターネット利用
277 件	1,155 枚	299 人	2 件	8 人	936 人

貸出冊数の推移 (H25～29 年度)

H25	H26	H27	H28	H29
110,945 冊	113,078 冊	103,392 冊	105,979 冊	99,342 冊

町人口(平成 30 年 4 月 1 日現在) 20,906 人
町民登録率 30.6% 町民 1 人当たり貸出冊数 4.6 冊

団体貸出

町内の登録団体に対し、図書の貸出を行った。

*団体貸出を受ける団体の要件等

町内の団体で、非営利の目的で図書を利用する場合に 1 団体
100 冊まで 4 週間貸出を受けることができる。

団体貸出の推移 (H25～29 年度)

H25	H26	H27	H28	H29
2,571 冊	2,786 冊	2,577 冊	2,558 冊	2,411 冊



図書館カウンター付近



読書通帳



わらべうたの会

資料

VI資料

歴代教育長・教育委員

(1) 旧教育委員会法による

	氏名	就任期間	備考
1	蒔 文雄	S 2 7. 1 0 ~ S 3 1. 9. 3 0	委員長
2	福田 清衛	〃	
3	青木 忠雄	〃	
4	石渡 新治	〃	
5	岡田 徳治	〃	
6	根本 森治	S 2 7. 1 1. 1 ~ S 2 8. 3. 3 1	教育長
7	小倉 政雄	S 2 8. 4. 1 ~ S 3 1. 9. 3 0	教育長

(2) 地教行政法による

	氏名	就任期間	備考
1	京増 和	S 3 1. 1 0. 1 ~ S 3 3. 1. 3 1	委員長
2	飯沼 喜重	〃 ~ S 5 3. 9. 3 0	委員長 (S35. 10. 1~S53. 9. 30)
3	武田喜一郎	〃 ~ S 3 8. 9. 3 0	
4	野谷 勘一	〃 ~ S 4 8. 9. 3 0	
5	相京 良助	〃 ~ S 3 5. 9. 3 0	教育長
6	篠原 重雄	S 3 3. 2. 6 ~ S 3 9. 9. 3 0	委員長 (S33. 2. 6~S35. 9. 30) 教育長 (S35. 10. 1~S39. 9. 30)
7	斉藤 秀雄	S 3 5. 1 0. 1 ~ S 3 7. 6. 1 2	
8	斉藤 円盛	S 3 7. 9. 1 1 ~ S 3 8. 6. 1 2	
9	竹尾 隆	S 3 8. 6. 1 3 ~ S 4 3. 9. 3 0	教育長 (S39. 10. 1~S43. 9. 30)
10	藤崎 善学	S 3 8. 1 0. 1 ~ S 5 0. 9. 2 0	
11	蒔 富美代	S 4 0. 4. 2 2 ~ S 4 6. 9. 3 0	教育長 (S44. 1. 15~S46. 9. 30)
12	斉藤 一郎	S 4 3. 1 2. 2 0 ~ S 5 1. 1 2. 2 1	
13	福田 正吉	S 4 6. 1 0. 1 ~ S 6 0. 4. 2 1	教育長
14	青木 一雄	S 4 8. 1 1. 1 2 ~ H 3. 1 2. 2 2	委員長 (S53. 10. 1~H2. 12. 31)
15	高須賀辰之助	S 5 0. 1 0. 1 ~ H 1 5. 9. 3 0	委員長 (H3. 1. 1~H8. 9. 30)
16	京増 和治	S 5 1. 1 2. 2 0 ~ S 5 9. 1 2. 1 9	
17	藤崎 達男	S 5 3. 1 0. 1 ~ H 1 4. 9. 3 0	委員長 (H8. 10. 1~H12. 9. 30)
18	木村 幸子	S 6 0. 3. 2 0 ~ H 9. 3. 1 9	
19	綿貫登喜夫	S 6 0. 4. 2 2 ~ H 9. 4. 2 1	教育長
20	西郡 義三	H 4. 3. 1 6 ~ H 1 7. 1 2. 1 7	委員長 (H12. 10. 1~H17. 9. 30)
21	藤崎美津江	H 9. 3. 2 0 ~ H 2 1. 3. 1 9	委員長 (H17. 10. 1~H20. 9. 30)
22	津田 藤人	H 9. 4. 2 2 ~ H 1 1. 3. 3 1	教育長
23	伊藤 祐司	H 1 1. 4. 1 ~ H 1 6. 3. 3 1	教育長
24	坪内 東公	H 1 4. 1 0. 1 ~ H 2 6. 9. 3 0	委員長 (H20. 10. 1~H24. 9. 30)
25	小山 優子	H 1 5. 1 0. 1 ~ H 2 7. 9. 3 0	
26	津田 藤人	H 1 6. 4. 1 ~ H 1 9. 4. 3 0	教育長
27	大谷 文男	H 1 8. 4. 1 ~ H 2 6. 3. 3 1	委員長 (H24. 10. 1~H26. 3. 31)
28	浦壁 京子	H 2 1. 3. 2 4 ~ 現在に至る	委員長 (H26. 4. 1~H27. 3. 31)
29	子安 昌人	H 2 1. 4. 2 2 ~ H 2 3 3. 3 1	教育長
30	東條三枝子	H 2 3. 4. 1 ~ H 2 5 3. 3 1	教育長
31	石井 國治	H 2 6. 1 0. 1 ~ 現在に至る	
32	村重 浩二	H 2 6. 1 0. 1 ~ 現在に至る	
33	落合 繁夫	H 2 5. 4. 1 ~ H 2 7 3. 3 1	教育長
34	木村 俊幸	H 2 7. 4. 1 ~ 現在に至る	教育長
35	林 洋子	H 2 7. 1 0. 1 ~ 現在に至る	

就学支援委員会

任 期 (平成29年4月1日から平成31年3月31日)

番号	氏 名	備 考
1	林 洋 子	学識経験者
2	京 増 法 子	学識経験者
3	土 田 崇 一 郎	学識経験者 (H30.4.1から)
4	倉 石 公 路	学校医 (H30.6.12まで)
5	前 田 幸 輝	学校医
6	猪 鼻 慎 二	酒々井小学校長
7	吉 村 忠 広	大室台小学校長
8	今 井 俊 幸	酒々井中学校長 (H30.4.1から)
9	高 橋 和 也	酒々井小学校特別支援教育担当者
10	安 原 直 子	酒々井小学校特別支援教育担当者 (H30.4.1から)
11	折 原 光 子	大室台小学校特別支援教育担当者
12	小 川 利 明	大室台小学校特別支援教育担当者
13	瀧 口 誠 之	酒々井中学校特別支援教育担当者

学校医・学校歯科医・学校薬剤師

酒々井小学校

番号	氏 名	備 考
1	前 田 幸 輝	学校医
2	寄 藤 和 彦	学校医
3	野 本 達 夫	学校医 (耳鼻科)
4	呉 輔 仁	学校医 (眼科)
5	宮 野 貴	学校歯科医
6	日 良 勝 範	学校歯科医
7	寺 蘭 史 子	学校薬剤師

大室台小学校

番号	氏 名	備 考
1	前 田 幸 輝	学校医
2	鈴木テイベリユウ浩志	学校医
3	野 本 達 夫	学校医 (耳鼻科)
4	呉 輔 仁	学校医 (眼科)
5	梅 村 義 成	学校歯科医
6	前 田 英 作	学校歯科医
7	石 井 美 帆 子	学校薬剤師

酒々井中学校

番号	氏 名	備 考
1	園 信 楽	学校医
2	倉 石 公 路	学校医 (H30.6.12まで)
3	野 本 達 夫	学校医 (耳鼻科)
4	呉 輔 仁	学校医 (眼科)
5	安 部 秀 彦	学校歯科医
6	小谷野 純 一	学校歯科医
7	石 井 道 子	学校薬剤師
8	前 田 幸 輝	学校医 (H30.6.13から)

学校給食センター運営委員会

任期（平成29年4月1日～平成31年3月31日）

番号	氏名	備考
1	◎猪鼻慎二	酒々井小学校長
2	吉村忠広	大室台小学校長
3	今井俊幸	酒々井中学校長
4	石渡慎二	酒々井小学校PTA会長
5	官林直樹	大室台小学校PTA会長
6	○蒔吉弘	酒々井中学校PTA会長
7		学校医
8	地福美枝子	町議会議員
9	小別當ひろ子	学識経験者

◎委員長 ○副委員長

社会教育委員会

任期（平成29年4月1日～平成31年3月31日）

番号	氏名	備考
1	今井俊幸	学校教育関係者
2	猪鼻慎二	学校教育関係者
3	羽生愛子	社会教育関係者
4	齊藤千夏	社会教育関係者
5	長谷川睦	学識経験者
6	小池秀和	学識経験者
7	◎吉田和子	学識経験者
8	○石田準一	学識経験者
9	梶由里子	家庭教育関係者

◎委員長 ○副委員長

生涯学習推進会議 兼務

文化財審議会委員

任期（平成30年4月1日～平成32年3月31日）

番号	氏名	備考
1	鈴木満壽男	仏教美術
2	高木正浩	郷土史
3	◎高橋健一	歴史考古
4	稲坂徳太郎	鍛造技術
5	犬島正子	植物、植生
6	○川端弘士	考古学
7	中澤恵子	近・現代史
8	山本孝一	郷土史
9	古川好夫	郷土史

◎会長 ○副会長

青少年相談員連絡協議会

任期（平成28年4月1日～平成31年3月31日）

番号	氏名	備考
1	○松本光幸	9期
2	◎原靖明	8期
3	日笠智一	7期 会計
4	○相京輝彦	6期
5	松本映彦	6期 監事
6	森田裕司	4期
7	田仲信也	4期
8	戸田淳	4期
9	曾良俊洋	2期
10	玉井智拓	2期
11	安納和子	1期
12	久保亨恵	1期
13	片岡健治	1期

◎会長 ○副会長

同和対策集会所運営委員会

任期（平成29年6月6日～平成31年6月5日）

番号	氏名	備考
1	◎御園生浩士	町議会議員
2	櫻井照嘉	福祉関係者
3	○阿部二三男	同和問題に関する識者
4	谷川恒司	同和問題に関する識者
5	柏木良夫	同和問題に関する識者
6	猪鼻慎二	学校教育関係者
7	今井俊幸	学校教育関係者
8	羽生愛子	社会教育関係者
9	長谷川睦	社会教育関係者
10	原靖明	社会教育関係者
11	久保亨恵	社会教育関係者

◎委員長 ○副委員長

人権教育推進協議会

任期（平成29年4月1日～平成31年3月31日）

番号	氏名	備考
1	平澤昭敏	町議会議員
2	○阿部二三男	人権・同和問題に関する識者
3	谷川恒司	人権・同和問題に関する識者
4	柏木良夫	人権・同和問題に関する識者
5	鎌田行平	人権・同和問題に関する識者
6	◎猪鼻慎二	学校教育関係者
7	加藤誠則	学校教育関係者
8	吉村忠広	学校教育関係者
9	岡野谷明子	学校教育関係者
10	今井俊幸	学校教育関係者
11	倉谷昌史	学校教育関係者
12	齊藤千夏	社会教育関係者
13	鬼丸幸子	社会教育関係者
14	河島幸弘	行政関係者

◎会長 ○副会長

公民館運営審議会

任期（平成28年10月1日～平成30年9月30日）

番号	氏名	備考
1	猪鼻慎二	校長会
2	鮎川賢純	文化協会
3	秋山千恵子	文化協会
4	寺本恵美	婦人会
5	筋吉弘	P T A連絡協議会
6	鶴岡春美	民生委員児童委員協議会
7	◎江澤眞一	町議会議員
8	濱口信昭	町議会議員
9	○鶴岡佳子	商工会

◎委員長 ○副委員長

スポーツ推進委員連絡協議会

任期（平成29年4月1日～平成32年3月31日）

番号	氏名	備考
1	◎酒井康博	
2	○佐藤和彦	
3	○羽生愛子	
4	飯田芳朗	監事
5	松元健一	
6	松本文男	
7	土橋繁明	
8	小早稲美穂	
9	大岸武志	
10	北村真紀	
11	花澤一茂	
12	眞々田義則	
13	仙田陽子	
14	京増かおり	
15	中台陽一郎	
16	柴文人	
17	福田円	
18	小野啓子	

◎委員長 ○副委員長

酒々井町体育協会

任期（平成30年度総会～平成32年度総会）

	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	◎佐藤修二	卓球	23	鈴木正一	理事 柔道
2	○安田文雄	陸上競技	24	金子俊夫	理事 柔道
3	○小出由里子	空手道	25	山田悦子	理事 ソフトボール
4	石井國治	代表理事 ソフトボール	26	相京祥平	理事 バドミントン
5	吉田美成子	代表理事 ソフトテニス	27	森田映美	理事 バドミントン
6	石井中	監事 ソフトボール	28	石井幹久	理事 ゴルフ
7	鵜澤勝己	監事 生涯学習課長	29	大川茂	理事 ゴルフ
8	京増郁夫	理事 陸上競技	30	長谷川三雄	理事 テニス
9	土橋繁明	理事 陸上競技	31	山本優	理事 テニス
10	宗島治夫	理事 軟式野球	32	山内立美	理事 空手道
11	齊藤歩	理事 軟式野球	33	内海五郎	理事 クレー射撃
12	荒井拓	理事 バスケットボール	34	三橋榮吉	理事 クレー射撃
13	高橋和樹	理事 バスケットボール	35	筋吉弘	理事 サッカー
14	大岸武志	理事 バレーボール	36	石渡慎二	理事 サッカー
15	綾田奈津子	理事 バレーボール	37	宮岡三郎	理事 グラウンドゴルフ
16	大谷通男	理事 剣道	38	清宮邦一	理事 グラウンドゴルフ
17	梅村益司	理事 剣道			
18	京増重利	理事 弓道			
19	大谷真一	理事 弓道			
20	佐々木宏光	理事 卓球			
21	池田一男	理事 卓球			
22	八巻隆	理事 ソフトテニス			

◎会長 ○副会長

平成30年度 酒々井の教育

発行日 平成30年10月

発行 酒々井町教育委員会

編集 酒々井町教育委員会事務局

千葉県印旛郡酒々井町中央台4-11

電話 043-496-1171

